

Antelope Audio

Zen Tour Synthcore Core





CONTENTS

Before You Begin	4
Mandatory Online Activation	5
Setting Up	6
Configuring For Windows 10	7
Configuring For MacOS 10.14 Mojave (Or Later)	9
Thunderbolt™ 3 Functionality	11
Daisy Chaining	11
Device Charging	12
Backwards Compatibility	12
Antelope Launcher	12
'Devices' Tab	12
'Plug-Ins' Tab	15
'System' Tab	16
Panels Explained	19
Top Panel	19
Front Panel	21
Rear Panel	22
Touchscreen Functionality	24
Control Panel	28
Quick Start	29
Mouse & Keyboard Shortcuts	31
Main View	32
Settings Window	33
Preamp Tab	36
ADAT In Tab	37
S/PDIF In Tab	38

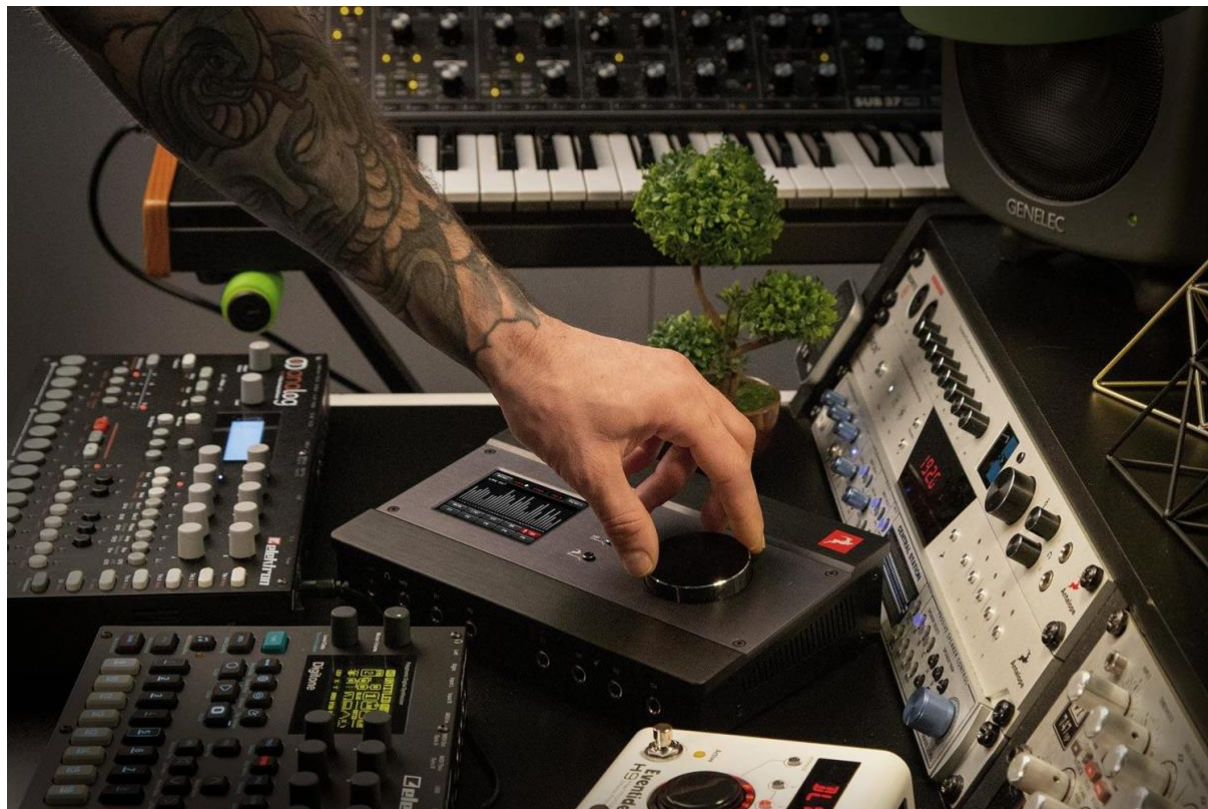


'Routing' Tab	40
Routing Matrix - Terminology	41
'Mixer' Tab	43
Auraverb	43
'Effects' Tab	46
Guitar Amps & Cabs	47
Re-Amping	50
Software Re-Amping	51
Edge & Verge Mic Emulations	52
Edge Solo	54
Edge Duo	55
Edge Quadro	58
Verge	61
AFX2DAW	63
'Meters' Tab	66
Advanced User Tips	66
Send And Receive Cv (Control Voltage) Commands To Eurorack Modular Synths	66
Customer Support Information	68
My Antelope Audio Product Isn't Working.	69
Limited Warranty Policy	71
Safety Notes	76
Technical Specifications	78



BEFORE YOU BEGIN

Congratulations on your purchase! We would like to turn your attention to the following:



Zen Tour Synergy Core は、デスクトップ・オーディオ・インターフェースがどれだけの接続性とコンピューティング・パワーを発揮できるかについて、新しい事例を作ります。サウンドクオリティや FX 処理能力、素材構築に至るまで、すべての面でプロのスタジオ・ラックマウント・インターフェースのポータブルライバルと考えてください。

最大256の FX インスタンスを処理する4x DSP と2x FPGA プロセッサ、8つのアナログ入力、14のアナログ出力、S/PDIF と ADAT デジタル接続、130dB のダイナミックレンジ AD/DA 変換を搭載した新しい Zen Tour は、このカテゴリーの新しいパフォーマンスとオーディオ品質の基準を設定しています。

本機の充実したタッチスクリーン機能と便利なトップ・パネル・コントロールにもかかわらず、ソフトウェア・コントロール・パネルは、Zen Tour Synergy Core と DAW との間の究極の「仲介者」となります。本機の機能を最大限に活用するためには、ゲイン調整、シグナル・ルーティング、エフェクト・プロセッシング、初期ミキシング、メータリングなどのタスクを、直感的なシングル・ウィンドウ環境から処理する必要があります。結果として得られたオーディオは、マルチトラック、ステム、2 チャンネルステレオなど、お好みのフォーマットでレコーディングするために DAW にルーティングされます。



このように、作業を始める前に「コントロールパネル」の章、特に「ルーティング」タブをよく理解しておくことをお勧めします。クイックスタートの例もいくつか掲載されています。このようにして、アンテロープ・オーディオ製品を初めて使用する方が、よくある躓きを克服することができます。

もし困ったことがありましたら、電話、ライブチャット、チケットシステムのカスタマーサポートチームにご連絡ください。また、YouTube の Antelope Audio のビデオチュートリアルをご覧になったり、Facebook の Antelope Audio Users グループに参加してアドバイスを求めたりすることもできます。ナレッジベースも貴重な情報源です。

Zen Tour Synergy Core を楽しんでいただけることを願っています。

Best wishes,

Team Antelope

MANDATORY ONLINE ACTIVATION

デバイスのアクティベーションを行うには、お使いのコンピュータでアクティブなインターネット接続が必要です。オフラインでの Antelope デバイスのアクティベーションは不可能です。ご注意ください。



SETTING UP

デバイスに AC 電源を接続し、コンピューターの電源を入れます。

1. USB 2.0 Type-B（付属）または Thunderbolt™ 3 ケーブルを Zen Tour Synergy Core およびコンピューターに対応するポートに接続します。

メモ:

- ユニットは、最初の起動時に接続タイプを自動的に検出しますが、その後の起動では検出しません。Thunderbolt™ 接続と USB 接続を切り替えるたびに、システムメニューの [Change Interface] から接続タイプを手動で設定します。
- 初期設定後、Thunderbolt™ と USB の両方をコンピューターに接続し、システムメニューの [Change Interface] から切り替えることができます。

2. www.antelopeaudio.com にアクセスしてアカウントにログインするか、新たにアカウントを作成します。（アカウントがない場合）

3. Zen Tour Synergy Core Web サイトの「[ダウンロード](#)」セクションから、オペレーティングシステム（Windows 10 / macOS 10.12 以降）用の最新の Antelope Launcher とドライバーをダウンロードしてインストールします。

注意: Windows での Thunderbolt™ 接続の場合、最新のものをダウンロードしてインストールします。 [Antelope Audio Windows Thunderbolt™ driver](#).

4. Antelope Launcher を起動し、Zen Tour Synergy Core が最新のファームウェアとコントロールパネルバージョンを実行していることを確認します。セットアップの詳しい解説は [こちら](#)

メモ: デバイスが Antelope Launcher またはオペレーティングシステムに認識されない場合は [こちら](#)

5. Antelope Launcher から Zen Tour Synergy Core Control Panel を起動し、デバイスのアクティベーションを行います。

注意: オペレーティングシステムからセキュリティプロンプトをバイパスします。Windows Defender ファイアウォールおよび macOS アラート。



6. お好みのアナログおよびデジタル機器を Zen Tour Synergy Core に接続します。

7. お好みの DAW を起動:

- Zen Tour Synergy Core を DAW の入出力デバイスとして選択します。
- DAW およびオペレーティングシステムのサンプルレートがデバイスのサンプルレートと一致していることを確認します。

ヘルプが必要な場合

[Antelope Audio Customer Support](#) サポートが必要な場合はこちらにアクセスしてください。

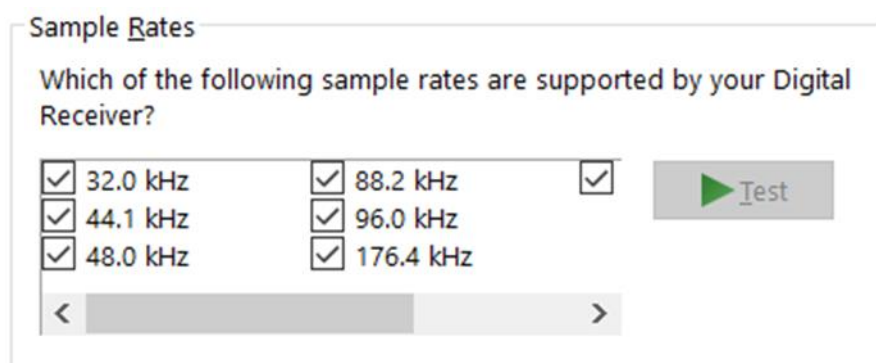
日本語でのサポートを希望する場合は日本語サポートへアクセスしてください。



2.1. Windows 10 の設定

Windows 10 では、すべてを稼働させるためにいくつかの調整が必要です。

1. コントロールパネルから [サウンド] オプションウィンドウに入るか、システムトレイのスピーカーアイコンを右クリックして [サウンド] を選択します。
2. [再生] タブに入り、デバイスがデフォルトの再生デバイスとして設定されていることを確認します。デバイスを選択し、[プロパティ] をクリックします。
3. [サポートされている形式] タブに入り、使用可能なすべてのサンプルレートの横にチェックマークを付けます。



4. [拡張機能] タブに入り、すべての拡張機能が 無効 になっていることを確認します。
5. [詳細設定] タブを開き、利用可能な [2チャンネル、24ビット] モードのいずれかを選択し、[OK]をクリックしてウィンドウを閉じます。



Default Format

Select the sample rate and bit depth to be used when running in shared mode.

2 channel, 24 bit, 44100 Hz (Studio Quality) ▼

▶ Test

[録音] タブに入り、デバイスがデフォルトの録音デバイスとして設定されていることを確認し、[OK] をクリックしてウィンドウを閉じます。

Tips

- 使用中に中断または障害が発生し、同時に OS からオーディオを再生しようとする場合は、デバイスのサンプルレートが DAW セッションと一致することを確認してください。
- デバイスを無効にし、[再生] タブから再度有効にして、ドライバーを更新できます。これは、デバイスの切断と再接続に似ており、Windows が使用中のアプリケーションの再生設定をリセットします。
- 場合によっては、[再生] プロパティの [詳細] タブで [排他モード] 機能を無効にすることで、複数の再生アプリケーションを同時に実行するのに役立つ場合があります。
- 32kHz のサンプルレートを無効にすることは必須ではありませんが、一般に役立つ場合があります。

以下を軽くお読みください。

Antelope Audio Knowledge Base - [Windows 10 Optimization](#)

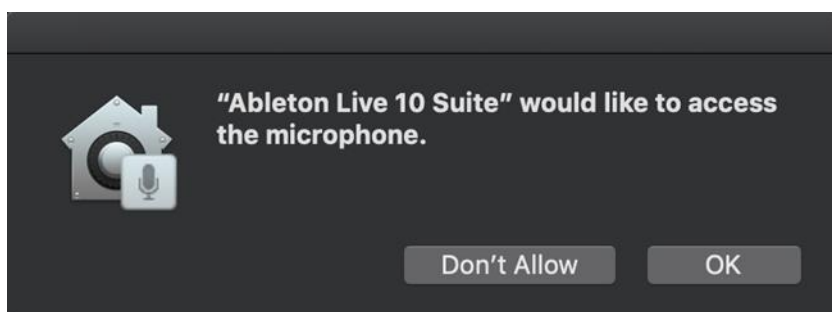


2.2. macOS の設定 (10.14 or later)

macOS Mojave 10.14 で導入された新しいセキュリティ設定により、すべてが正しくセットアップされていても、DAW に入力信号が届かない場合があります。

これらの手順は、DAW で Zen Tour Synergy Core を初めて使用する場合に適用されます。

1. DAW を起動し、入力デバイスとして Antelope 製品を選択します。次のダイアログボックスが表示されます。
(例えば、Ableton Live 10 Suite を使用している場合)



2. [OK] をクリックすると、DAW が正常に機能します。

ただし、何らかの理由で上記のイベントが発生しなかった場合、または複数の DAW を使用している場合は、[セキュリティとプライバシー] 設定でそれぞれを手動で調整する必要があります。

1. メニューバー 左上 [Apple] 記号をクリックして、[システム環境設定] を選択します。[セキュリティとプライバシー] 設定メニューに移動します。
2. [プライバシー] タブをクリックします。左側の列で、[マイク] を選択します。使用する DAW の横にチェックマークがあることを確認してください。



注意: 設定を変更するには、左下隅にある南京錠のシンボルをクリックしてパスワードを入力する必要があります。



THUNDERBOLT™ 3 FUNCTIONALITY

Zen Tour Synergy Core の Thunderbolt™ 3 接続では、以下の機能を利用できます。

Daisy Chaining

Thunderbolt™ 3 は、デバイスを「デイジーチェーン」することができます。デイジーチェーンとは、1つのデバイスをチェーンの末端に接続して、次から次へとデバイスを接続することを意味します。基本的な例としては、Zen Tour Synergy Core を2つの Thunderbolt™ 3ポートを持つ外付けハード・ドライブに接続します。片方のポートは Zen Tour が使用し、もう片方のポートはコンピュータまたはチェーン内の別の Thunderbolt™ 3 デバイスに接続します。

以下のようなルールを設けています。

1. Thunderbolt™ 3 の仕様では、1 チェーンあたり最大 6 台までのデバイスが制限されています。ただし、以下のアップルコンピュータには 6 デバイスの制限は適用されません。

- 2018 MacBook Pro or later
- 2018 Mac mini
- 2017 iMac Pro

これらのマシンは、デュアル Thunderbolt™ 3 バスを搭載し、チェーンあたり最大 12 台のデバイスをサポートします。

2. 各デバイスは、後続のデバイスが動作するために電源を入れておく必要があります。

3. USB または DisplayPort デバイスが下流の USB-C コネクタに直接接続されている場合、Thunderbolt™ デイジーチェーンはその時点で終了します。

4. Thunderbolt™ の帯域幅がデイジーチェーン接続されたデバイス間で共有されるため、各デバイスの利用可能な帯域幅は必然的に減少します。そのため、Antelope Audio は、デイジーチェーンの構成において最適なパフォーマンスを保証することはできません。



Device Charging

Zen Tour Synergy Core はバスパワーでの給電はできませんが、Thunderbolt™ 3ポートからあらゆる Type-C デバイスに給電することができます。例えば、ノートパソコン（例：2016 MacBook Pro 以降）に電源を供給することができます。

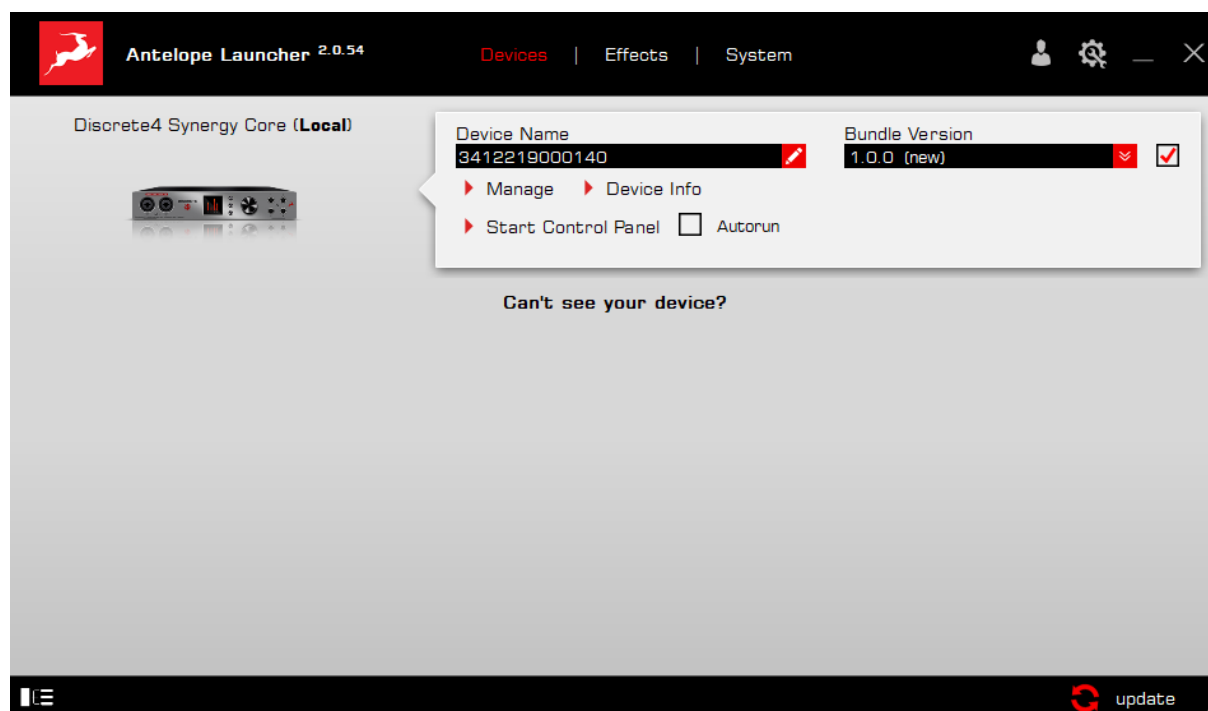
Backwards Compatibility

Thunderbolt™ 3は、レガシーの Thunderbolt™ 2および Thunderbolt™ 1との下位互換性があり、サードパーティ製の TB 3 to Legacy TB アダプタと対応するケーブルを使用して接続します。このマニュアルではレガシー互換性についての説明はしていません。設定に関するヘルプが必要な場合は、カスタマーサポートにお問い合わせください。

ANTELOPE LAUNCHER

Antelope Launcher は、Antelope オーディオ製品の管理とトラブルシューティングのための合理化されたハブです。アプリケーションは以下のタブで構成されています。

‘Devices’ tab





現在お使いのコンピュータに接続されている Antelope Audio のデバイスはすべてこのセクションに記載されています。この例では、**Discrete 4 Synergy Core** を接続しています。ただし、アプリケーションの機能は各 Antelope デバイスで同じです。

Devices タブには以下の機能があります。

Device Name

黒いボックスをクリックして、デバイスの名前を入力します。デフォルトでは、デバイスのシリアル番号が使用されます。名前を消去してボックスの外をクリックすると、シリアル番号に戻ります。

Bundle Version

デフォルトでは、このドロップダウンメニューには、お使いのデバイスで利用可能な最新のソフトウェアバンドルが表示されます。これをクリックすると、現在インストールされているソフトウェアバンドルのバージョンが表示され、古いビルドにロールバックすることができます。

インストールされているソフトウェアのバージョンを更新または変更するには、ご希望のバンドルバージョンを選択し、ドロップダウンメニューの横にあるチェックマークをクリックし、「更新」ボタンをクリックします。

Manage

クリックすると、Antelope 登録ウィザードが起動します。これを使って、デバイスや機能（AFX2DAW、Synergy Core FX、HDX Activation など）の登録や登録解除を行います。

Device Info

クリックすると、以下の情報が表示されます（トラブルシューティングに利用します。）

- Serial number
- Hardware version
- Firmware version
- Control Panel version
- USB/Thunderbolt™ driver version
- Software Bundle version

情報ウィンドウをクリックして閉じます。

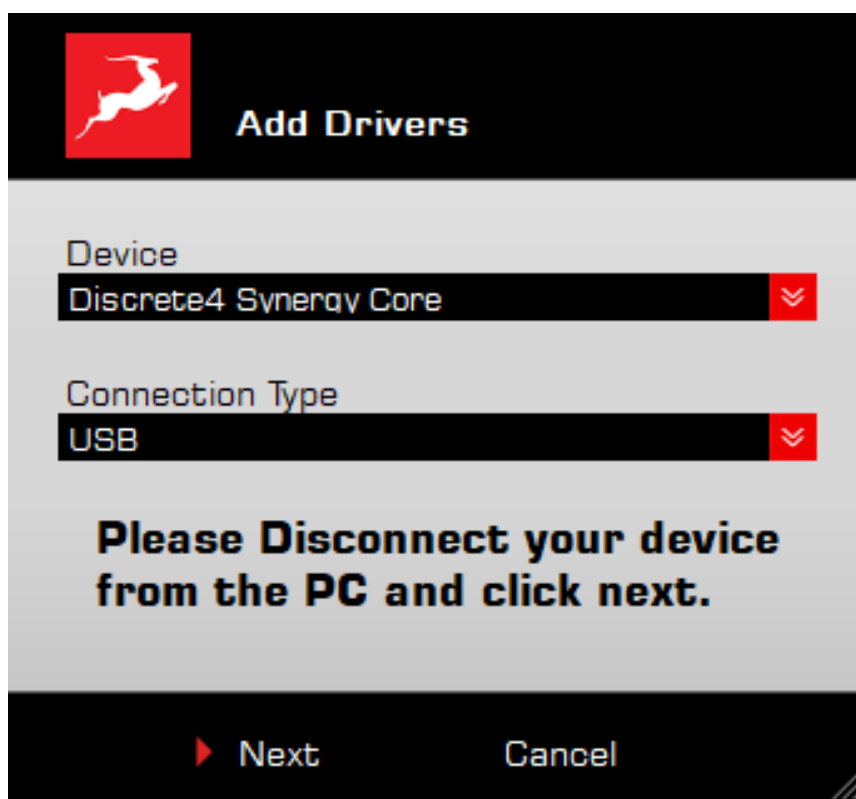


Start Control Panel

クリックすると、デバイスのコントロールパネルアプリケーションが起動します。デバイスの画像をクリックすることもできます。Autorun'の横にあるチェックマークをクリックすると、Antelope Launcher を起動した時に、特定のデバイスのコントロールパネルが自動的に起動するようになります。

Can't see your device?

デバイスがリストから消えている場合、最も一般的な理由はドライバの競合です。Antelope Launcher を使えば、ドライバの再インストールやトラブルシューティングを簡単に行うことができます。デバイスが表示されませんか？"をクリックして、"ドライバの追加 "ウィザード"を起動します。

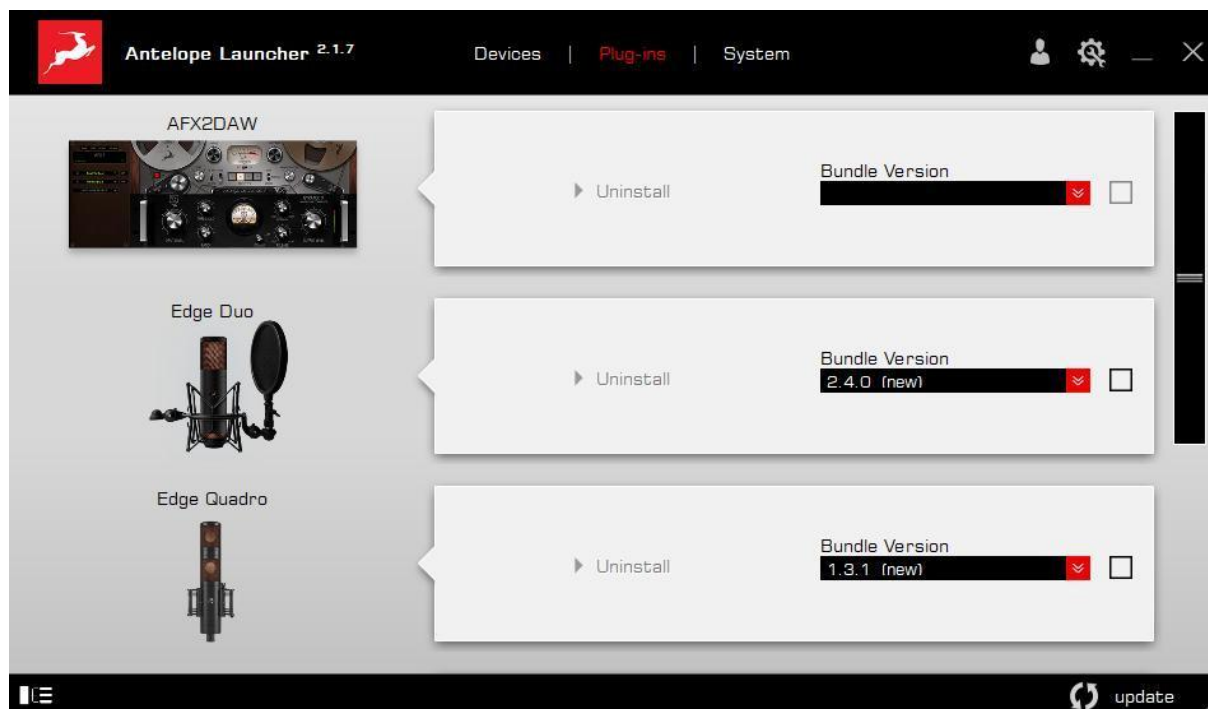


ドロップダウンメニューからデバイスと接続タイプを選択し、コンピュータからデバイスを取り外し、「Next」をクリックしてドライバの再インストールを実行してください。

注意: 問題が解決しない場合は、Antelope Audio カスタマーサポートまでご連絡ください。



'Plug-ins' tab



このセクションでは、ネイティブマイクエミュレーションや AFX2DAW などの Antelope Audio ソフトウェアのインストール、アップデート、アンインストールを行うことができます。

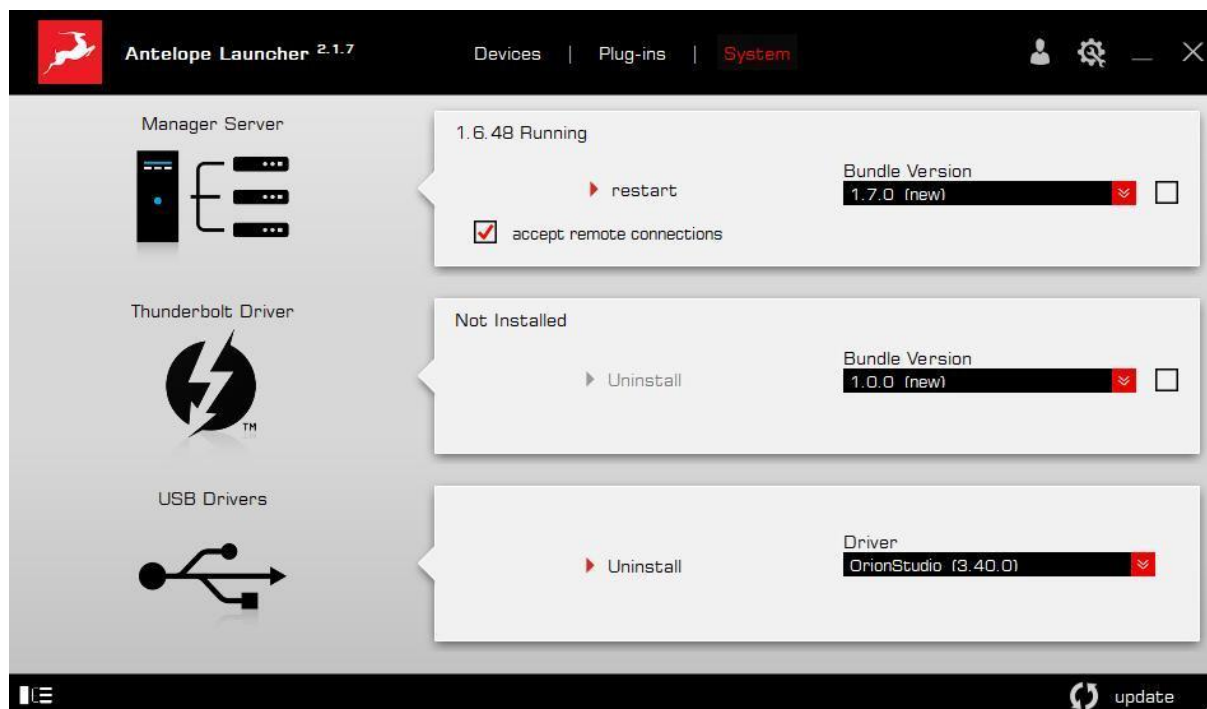
デフォルトでは、バンドルバージョンのドロップダウンメニューには、各製品で利用可能な最新のソフトウェアバンドルが表示されます。メニューをクリックすると、現在インストールされているソフトウェアバンドルのバージョンが表示され、古いビルドにロールバックすることができます。

インストールされているソフトウェアのバージョンを更新または変更するには、希望するバンドルバージョンを選択し、ドロップダウンメニューの横にあるチェックマークをクリックしてから、「更新」ボタンをクリックします。

注意: このプラグインは誰でもインストール可能ですが、iLok や Claim code の認証がされていない場合、使用できません。必ず該当製品を購入済でかつ、コードを認証してご利用ください。



'System' tab



- **Manager Server**

USB、Thunderbolt™ Driver のバージョンを更新またはロールバックします。ドロップダウンメニューから希望のバンドルバージョンを選択し、チェックマークをクリックし、「update」ボタンをクリックします。

- **Restart**

Manager Server を再起動し、ネットワーク上の他のコンピュータからのリモート接続を有効/無効にします。

- **Bundle Version**

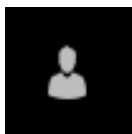
Antelope Audio Thunderbolt™ Driver をインストールします。ドロップダウンメニューからバンドルバージョンを選択し、チェックマークをクリックし、「update」ボタンをクリックしてください。

- **Uninstall**

お使いのシステムにある Antelope Audio Thunderbolt™ や USB ドライバをアンインストールしてください。



Login button

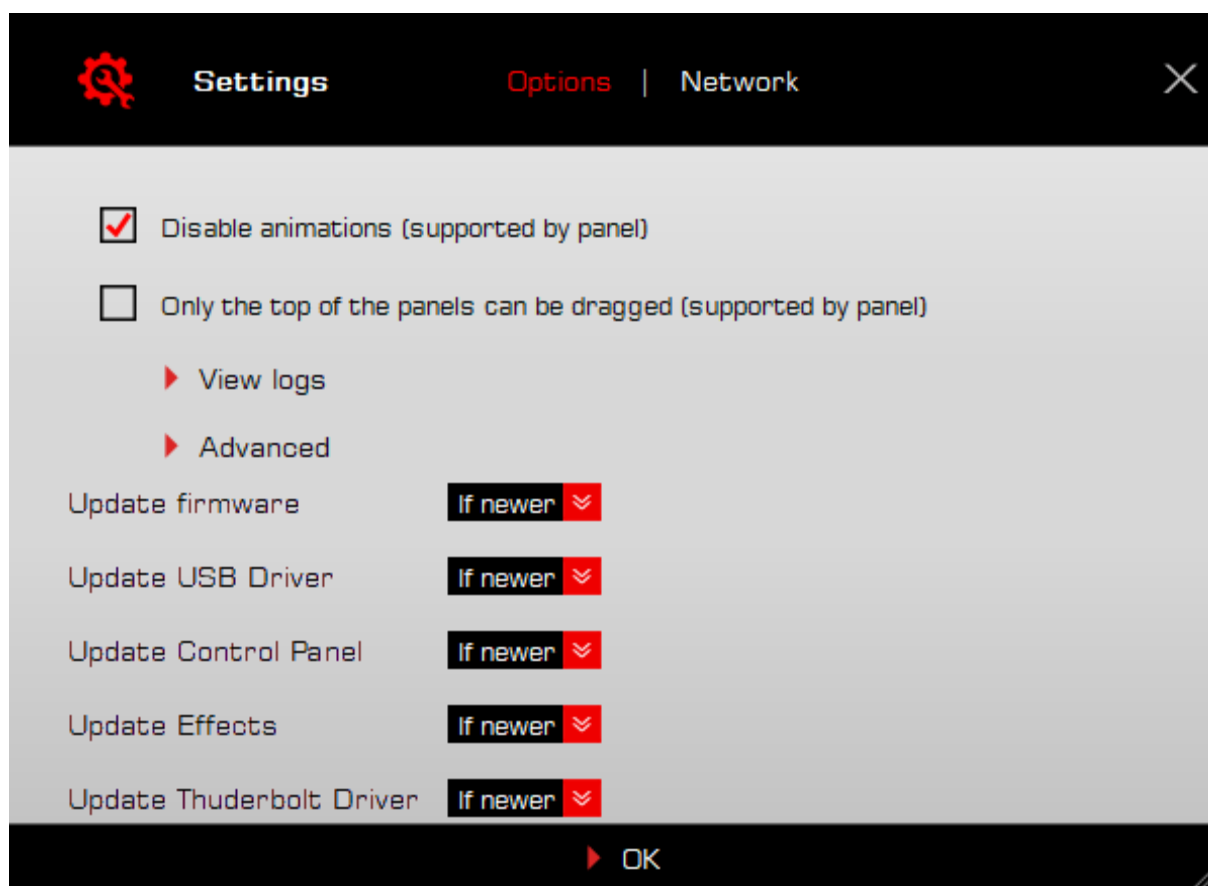


ユーザー名とパスワードをクリックして入力し、「Log in」をクリックしてください。Antelope Audio のアカウントをお持ちでない場合は、「Register」をクリックして画面の指示に従ってください。

Settings button



クリックして設定画面を開きます。



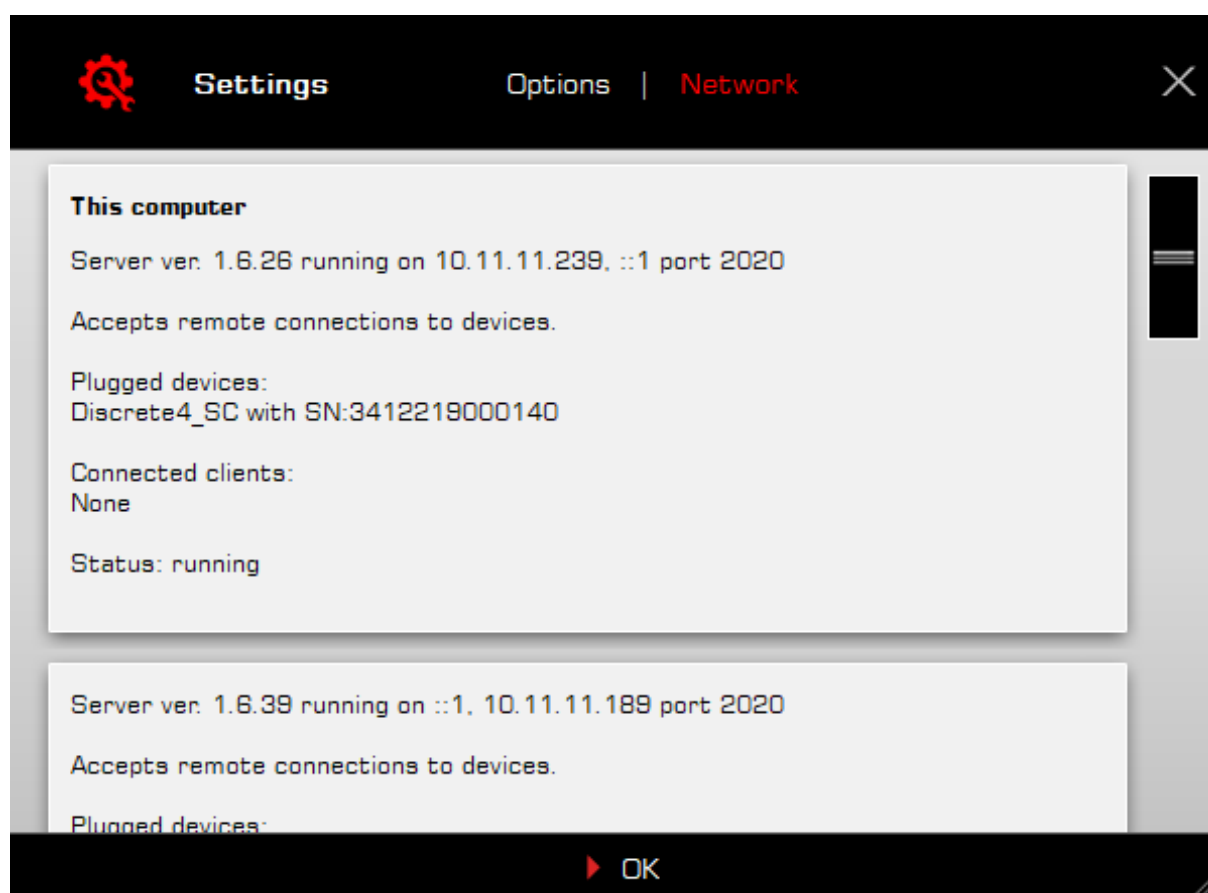
- View Logs をクリックして、アクティビティログを表示、保存、Antelope Audio カスタマーサポートに送信してください。



- Advanced をクリックすると、以下の各項目の自動更新を有効または無効にすることができます。
 - Device firmware
 - USB Driver
 - Control Panel
 - Effects
 - Thunderbolt™ driver

ドロップダウンメニューで選択し、「OK」をクリックします。

- Network をクリックすると、ネットワークの状態やログが表示されます。





PANELS EXPLAINED

Top Panel



1. Touchscreen

- パラメータを視覚化し、システムメニュー、電源オン/オフ、ゲインコントロール、プリセット P1～P5に素早くアクセスすることができます。
- タッチスクリーンの機能については、「Touchscreen Functionality」の章で詳しく説明しています。

2. Function Keys: 'Gain', 'HP', 'Antelope Button'.

- Gain を押して（押し続けて）、インターフェースの入力と出力のゲイン調整を循環させます。ロータリーコントロールを回してゲインを調整します。タッチスクリーン上の任意の場所をタップして終了します。
- HP を押して（押し続けて）、ヘッドフォン出力1と2のゲイン調整を循環させます。ロータリーコントロールを回してゲインを調整します。タッチスクリーン上の任意の場所をタップして終了します。



- Antelope Button は、ユーザーがカスタマイズできるショートカットです。機能は「MENU」の「Antelope Button」から選択できます。

3. Rotary Control

ゲインなどの値を正確に調整できる大型のステップエンコーダーです。

- エンコーダを時計回りまたは反時計回りに回してゲインを調整します。
- エンコーダを押して（押し下げて）、現在選択されている出力をミュートしたり、ミュートを解除したりすることができます。



Front Panel



左から右の順に説明



Headphone outputs 1 and 2

1/4インチ TRS 端子にステレオヘッドホン出力を2系統装備。



Re-amp outputs 1 and 2

ギターアンプやその他の機器にダイレクトシグナルを送るためのトランスペースの出力で、「Dry」トラックのリアンピングに適しています。

Note: 技術的には、REAMP 出力を外部機器のセンドとして使用することができますが、これは「適応外」のことであり、結果は異なる可能性があります。オーディオはインストゥルメントレベルで出力されますが、ラインレベルよりもはるかに静かで、通常、増幅のためにプリアンプが必要となります。



Hi-Z inputs G1 - G4

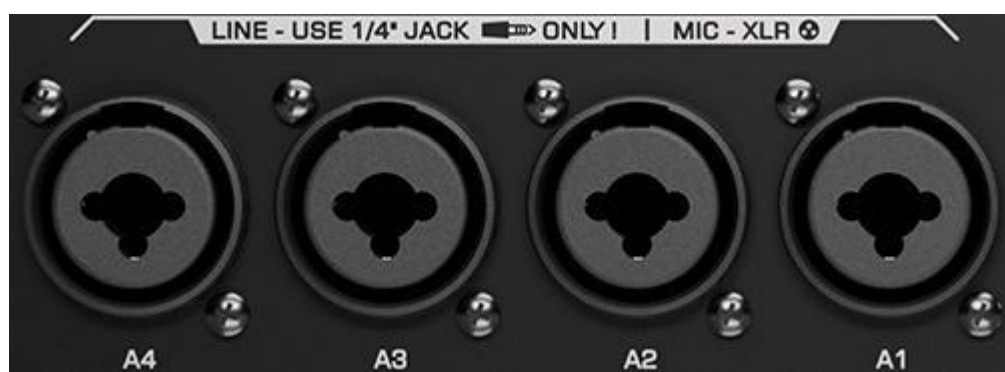
1/4 インチ TS 端子に 4 系統の Hi-Z 入力を搭載。エレキギターなど出力インピーダンスの高い楽器の録音に。TS インストゥルメントケーブルを使用してください。



Rear Panel



左から右の順に説明



Mic/Line inputs A4 - A1

コンボ XLR コネクタにマイク/ライン入力を4系統装備。マイクやラインレベルの機器を接続するために使用します。

重要 ラインレベルのソースを接続するには、TS/TRS オーディオケーブルを使用してください。マイクを接続するには XLR ケーブルを使用してください。

XLR ケーブルを接続すると、ラインレベルの信号を増幅し、オーディオの劣化の原因となるマイクプリアンプを巻き込みます。これは、コントロールパネルの「PREAMPS」タブから「Line」を選択しても上書きすることはできません。



USB Port



コンピュータ接続用の USB 2.0 Type-B ポートを搭載。最大 24bit/192kHz のサンプルレートで **24** の I/O オーディオチャンネルをサポート。



Thunderbolt™ 3 Port

コンピュータ接続用の Thunderbolt™ 3 Type-C ポート。最大 24bit/192kHz のサンプルレートで **32** の I/O オーディオチャンネルをサポート。



ADAT I/O

Optical コネクタに8つのデジタルオーディオ入力と8つのデジタルオーディオ出力があります。標準の ADAT オーディオリミットが適用されます。

- 44.1/48 kHz – 8 inputs / 8 outputs
- 88.2/96 kHz – 4 inputs / 4 outputs
- 176.4/192 kHz – 2 inputs / 2 outputs



Line outputs

DB-25 コネクタに 8 系統のアナログライン出力（TASCAM 標準ピンレイアウト）、DC 接続可。



S/PDIF I/O



2 チャンネルの S/PDIF デジタルオーディオを入出力。



Monitor outputs

1/4 インチジャックのメインモニター出力。

これらのマスタリンググレードの出力は、システムで最も高いダイナミックレンジを誇ります。



DC-IN

付属の専用 AC アダプタ電源のみで使用可能です。

TOUCHSCREEN FUNCTIONALITY

タッチスクリーンはボリュームメータリングを視覚化し、システムメニュー、電源オン/オフ、ゲインコントロール、プリセット P1～P5 に瞬時にアクセスできます。

タッチスクリーンはシングルフィンガータップで動作します。ピンチ・ツー・ズーム、マルチタッチなどの他の伝統的なジェスチャーは使用されません。

デフォルトでは、画面には選択したオーディオソースの各チャンネルのピークメーターが最大32個まで表示されます。

ピークメーターのオーディオソースを変更するには、任意の場所をタップします。



以下のいずれかにすることができます。

'Analog In'	Instrument/mic/line inputs
'Emulated Mic'	Mic emulation outputs
'ADAT In'	ADAT inputs
'S/PDIF In'	S/PDIF input
'AFX Out'	Synergy Core FX outputs
'MIX 1 – 4 L/R'	Software mixer stereo outputs
'LINE Out'	Line outputs
'HP 1 – 2'	Headphone outputs
'MONITOR'	Monitor outputs
'REAMP'	Re-amp outputs
'Computer Rec.'	DAW inputs
'ADAT Out'	ADAT outputs
'S/PDIF Out'	S/PDIF outputs
'AFX In'	Synergy Core FX inputs
'MIX CH 1 – 4'	Software mixer outputs

'MENU' Button

「MENU」をタップすると、次のオプションでシステムメニューにアクセスできます。

Brightness

スライダーを上下にドラッグして画面の明るさを調整します。

Comm. Interface

Thunderbolt™と USB 接続を選択します。選択肢がコンピュータの接続に合っていることを確認してください。

Scr Save Time

スクリーンセーバーが表示されるまでの時間を選択します。

Scr Save Style

スクリーンセーバーのスタイルを選択します。いずれかのボタンを押すか、画面をタップしてスクリーンセーバーは終了します。

Note: この LED カラーディスプレイは従来の LED 画面と同様に長い間同じ表示をし続けると焼き付けを起こします。この機能によって焼き付きを防止することができます。

SR Conversion



S/PDIF のサンプルレート変換を有効／無効にします。例えば、S/PDIF ソースが44.1kHz のオーディオを出力していて、インターフェースが96kHz に設定されている場合、S/PDIF オーディオは96kHz にサンプルレート変換されます。

Presets Saving

現在のデバイスとセッションの設定を5つのプリセットスロットのいずれかに保存します。プリセット1～5を呼び出すには、「P1」～「P5」（下段）をタップします。

Antelope Button

インターフェースのトップパネルにある Antelope ボタンを以下のいずれかに割り当てることができます。

- Monitor Mono - モニター出力をモノラルにする。
- Mon Dim (latch) – モニター出力を「Dim」します。もう一度押すと元に戻ります。
- Mon Dim (hold) – ボタンを押し続けてモニター出力を「Dim」します。離すと元に戻ります。

Clock Source

クロックソースを選択します。以下の選択肢があります。

- 'Internal' - Internal Clock
- 'S/PDIF' input (external)
- ADAT (2x, 4x) input (external)
- 'USB' - In 'USB' mode the unit still uses its internal clock.

Additional Functionality

- 「POWER」をタップしてインターフェースの電源を切ります。もう一度タップして確認してください。
- 「LOCK」インジケータは、インターフェイスが外部機器や DAW にロックされているときに表示されます。
- Sample Rate インジケータ（"Clock Source "の直後の数字）をタップすると、デバイスのサンプルレートを変更することができます。デバイスのサンプルレートを変更するには、デバイスのサンプルレートを変更する必要があります。

'MON' Button



「MON」をタップして「Monitor Volume」に入ります。以下のような機能があります。

- 左右の矢印をタップしてアナログ出力を「サイクル」させます。
- 「24 dBu」をタップして、あらかじめ設定された dBu 値で信号のトリムを調整します。
- 円をタップしたままドラッグすると、音量を dB で調整することができます。メインのロータリーコントロールノブからも調整できます。
- 「Speaker」シンボルをタップして、出力をミュートまたはミュート解除します。
- 「LINE」または「HP」をタップすると、それぞれ「LINE Out Volume」と「HP1/HP2 Volume」のページに移動します。機能は同じです。

'AMP' Button

「AMP」をタップして、Hi-Z/マイクプリアンプ/ラインインプットのゲイン調整を入力します。

左右の矢印をタップすると、入力が切り替わります。

- 「MIC」をタップして、入力信号の種類を選択します。
 - Mic (microphone input)
 - Line (line-level input)
- 円をタップして長押し、ドラッグして音量を dB 単位で調整します。メインのロータリーコントロールノブからできます。
- 「Speaker」のマークをタップして、入力をミュートまたはミュート解除します。

'TBK' Button

「TBK」をタップしてトークバックに入ります。以下の機能が利用できます。

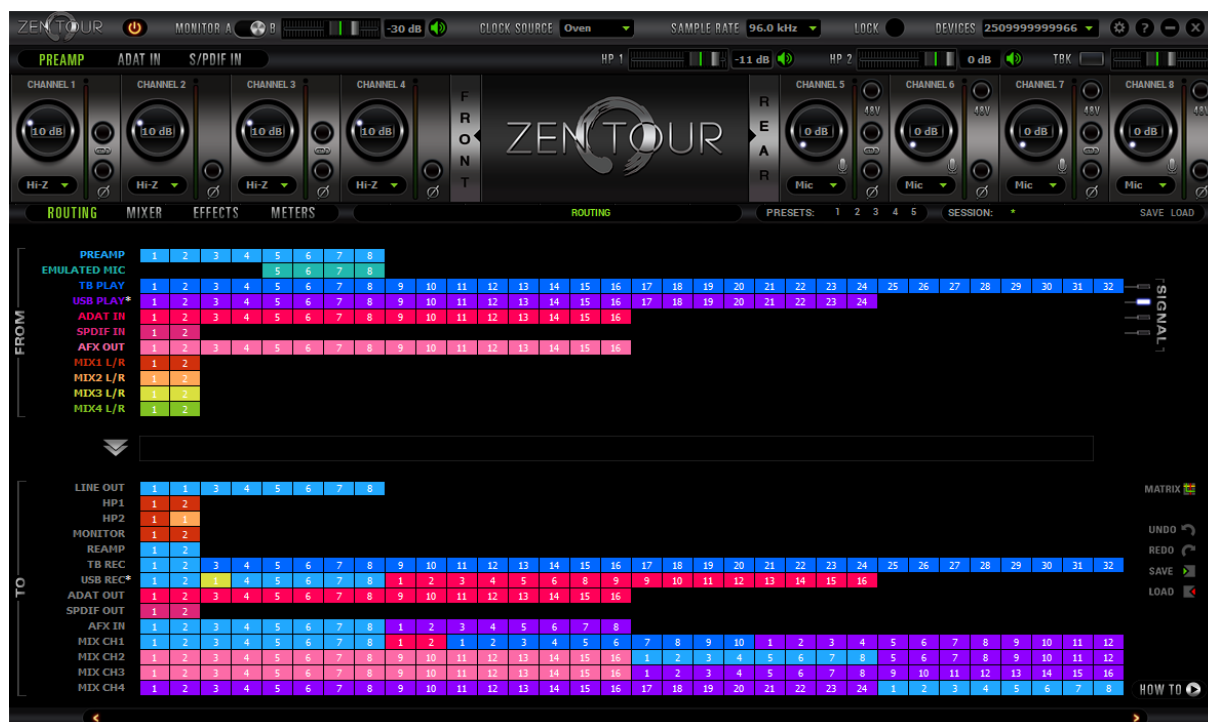
- タップして長押し、ドラッグして音量を dB 単位で調整します。メインのロータリーコントロールノブから行うことができます。
- 「HP1」をタップすると、トークバック入力がヘッドフォン出力 1（HP1）にルーティングされます。
- 「HP2」をタップすると、トークバック入力がヘッドフォン出力 2（HP2）にルーティングされます。
- 「MON」をタップすると、トークバック入力がメインモニター出力にルーティングされます。

'P1' - 'P5' Buttons



これらのボタンをタップすると、プリセット P1～P5を呼び出すことができます。

CONTROL PANEL



Zen Tour Synergy Core コントロール・パネル・アプリケーションへようこそ！

物理的なフロント・パネル・コントロールの代わりになるだけでなく、インターフェイスの機能の各側面に直感的かつ包括的にアクセスすることができます。設定、シグナル・ルーティング、ミキシング、エフェクト・スタッキング、メータリング、シグナル・トリム、プリセットなどが含まれます。

Quick Start

まず、コントロールパネルで実行される重要なタスクの簡単な例をいくつか挙げてみましょう。

Note: これらの例は、以下のタスクを達成するための「正しい」、「唯一の」方法を伝えるものではありません。これらの例は、単にいくつかの基本的なロジックを提示し、新しいユーザーがよく遭遇する最初のつまずきのブロックに対する解決策を提供しているに過ぎません。



Monitor incoming audio via headphones

プリアンプ／combo インプット A4 からのオーディオ入力を、HP Output 1 に接続されたヘッドフォンでモニターしたいと思います。コントロールパネルを開き、「Routing」タブに入ります。PREAMP" 8 と書かれた色付きの数字のブロックを、「HP1」と書かれた行からブロック "1" と "2" にドラッグします。

プリアンプとヘッドフォンのゲインは、コントロールパネルまたはインターフェースのトップパネルのコントロールで調整します。

Apply Synergy Core FX to incoming audio

プリアンプ/combo インプット A4からカスタム FX チェーンを経由してオーディオを出力し、その結果をスタジオモニターでモニターしたいと思います。

コントロールパネルを開き、「Routing」タブに入ります。PREAMP と書かれた行の 8 番のカラーブロックを「AFX IN」と書かれた行の 1 番のカラーブロックにドラッグします。

次に、「AFX OUT」と書かれた行の 1 番のカラーブロックを「MONITOR」と書かれたブロックの上にドラッグします。

ここで、「Effects」タブをクリックします。「ADD NEW EFFECT」ドロップダウンメニューをクリックして、お好みのエフェクトを追加します。FX で処理したオーディオを聴きながら、FX のパラメーターで遊んでみましょう。

Play guitar through the virtual amps and cabinets, listening from studio monitors

スタジオモニターをインターフェースのバックパネルのモニター出力に接続します。次に、インストゥルメントをフロントパネルのインプット G1 に接続します。ギターを演奏しながら、「Channel 1」コントロールで入力ゲインを調整します。

Note: インプットゲインを上げすぎないように注意してください (赤を点灯させてはいけません)。ピッキングやストラミングの強さでメーターが黄色あたりを表示するのが理想的です。



ゲインのキャリブレーションが完了したので、シグナルのルーティングを整理しましょう。「Routing」タブに入ります。「PREAMP」と書かれた行の 1 番のカラーブロックを「AFX IN」と書かれた行の 1 番のカラーブロックにドラッグします。

次に、「AFX OUT」と書かれた行の 1 番の色付きブロックを「MONITOR A」と書かれたペアのブロックにドラッグします。

最後に、「Effects」タブを開きます。「ADD NEW EFFECT」ドロップダウンメニューをクリックすると、アンプとキャビネットの組み合わせが表示されます。FXのパラメータを調整し、異なるアンプとキャビネットのモデルに耳を傾け、楽しんでください。

Sing with microphone emulations and monitor live with headphones

ヘッドフォンをフロントパネルの HP1 に接続します。Antelope Audio Edge または Verge のモデリングマイクをリアパネルの A1～A4とラベルのついたプリアンプ/コンボ入力のいずれかに接続します。Edge Solo と Verge はそれぞれ1つの入力を使用しますが、Edge Duo は2つ、Edge Quadro は4つの入力を使用します。

コントロールパネルを開き、「Routing」タブに入ります。「EMU MIC」と書かれた色付きのブロックを、マイクが接続されている入力に対応する番号のついたブロックを、「HP1」と書かれた色付きの番号のブロックにドラッグします。

コントロールパネルのソフトウェアまたはトップパネルのコントロールを使用して、マイクのプリアンプゲインとヘッドフォン出力のボリュームを調整します。次に、再び「PREAMPS」タブに入り、マイクが接続されている最初の（または唯一の）入力にある「マイク」のマークをクリックします。

「Mic Emulations」ウィンドウが開きます。クリックしてダイヤルを回し、マイクで利用できるエミュレーションを選択します。Edge Duo または Edge Quadro を選択すると、これらのマイクが使用する入力が自動的に「Link」されることに注意してください。マイクエミュレーションが適用された状態で、ヘッドフォンで自分の声をリアルタイムで聞くことができます。

Route audio to your DAW for recording

色付きの数字のブロックを、「COMP REC」と書かれた32（Thunderbolt™接続の場合）または24（USB 接続の場合）のブロックのいずれかにドラッグすることで、どのオーディオソースでも DAW に到達することができます。



す。「COMP REC」ブロックは、「Inputs 1 - 32」（Thunderbolt™接続の場合）または「Inputs 1 - 24」（USB接続の場合）として DAW に表示されます。

これにより、異なるトラックに「ドライ」と FX 処理されたオーディオを同時に録音したり、マルチトラックまたは2チャンネルのステレオフォーマットで最大4つの別々のミックスを出力したり、コントロールパネルアプリケーションからすべてをモニターしたりすることができます。

Mouse & Keyboard Shortcuts

以下の機能は、コントロールパネルのマウスとキーボードのショートカットからアクセスできます。

- ユニティーゲインに戻す（すべてのノブとフェーダー）：ノブまたはフェーダーをダブルクリックします。
- ピークメーターをクリックしてリセットします。
- テキストラベルの変更とゲイン値の手動入力：テキストラベル／ゲイン値をダブルクリックします。
- パラメータを1ステップ単位で調整します（すべてのノブとフェーダー）。Ctrl キーを押しながら（Windows）、Command キーを押しながら（macOS）ドラッグします。
- コントロールパネルのタブの取り外し、移動、サイズ変更。コントロールパネルのタブの切り離し、移動、サイズ変更：右クリック（Windows）／コマンドクリック（macOS）で該当するタブをドラッグします。
- プリセット 1～5 の保存：プリセット 1～5 の上で Ctrl キーを押しながら（Windows）、Command キーを押しながら（macOS）クリックします。



Main View



メインビューは、コントロールパネルのトップセクションに常に表示されています。以下のように構成されています。

Function Strip 1



左から右へ説明

Power Button

インターフェイスのオン/オフを切り替えます。

Monitor volume fader

クリックしてドラッグして、モニター出力の音量を調整します。スピーカーマークをクリックすると、ミュート/アンミュートができます。

Clock Source

クロックソースを選択します。以下の選択肢があります。

- 'Internal' - Internal Clock
- 'S/PDIF' input (external)
- ADAT (2x, 4x) input (external)
- 'USB' - In 'USB' mode the unit still uses its internal clock.



Sample Rate

デバイスのサンプルレートを選択します。デバイスのサンプルレートがオペレーティングシステムと DAW のサンプルレートと一致していることを確認してください。

LOCK Indicator

インターフェースが DAW や外部ユニットにロックされているときに点灯します。

Devices

ドロップダウンメニューで、接続されている Antelope デバイスをシリアル番号でリストアップします。

Gear Symbol

以下のオプションで設定ウィンドウを開きます。

Settings Window

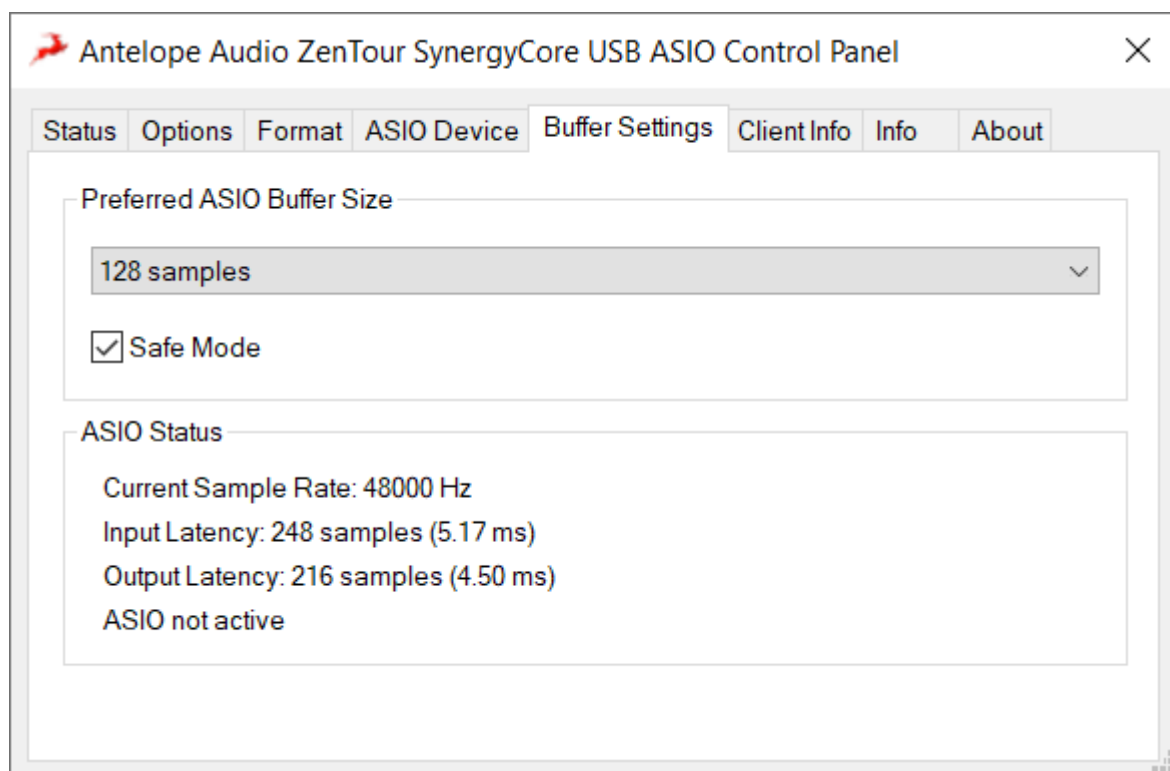
左から右へ、上から下へ

MONITOR OUT TRIM	Drop-down menu to adjust monitor output signal trim in dBu.
LINE OUT TRIM	Drop-down menu to adjust line outputs signal trim in dBu.
S/PDIF SRC	Activates or disables S/PDIF sample rate conversion.
TBK HP1	Click to send Talkback input to Headphone output 1.
TBK HP2	Click to send Talkback input to Headphone output 2.
TBK MONITOR	Click to send Talkback input to Monitor outputs.
MUTE	Click to mute Oscillator 1.
OSCILLATOR 1	Send test signal to outputs. Choose frequency from the drop-down menu.
LEVEL	Adjust test signal level in dBFS from the drop-down menu.
OSCILLATOR 2	Send test signal to outputs. Choose frequency from the drop-down menu.
MUTE	Click to mute Oscillator 2.
REAMP VOLUME	Click and drag the fader to adjust volume for Re-amp outputs 1 and 2 (in dB). Click the button to mute/unmute.
LINE OUT VOLUME	Click and drag the fader to adjust volume for the line outputs (in dB). Click the button to mute/unmute.
BRIGHTNESS	Click and the drag the fader to adjust touchscreen brightness.

BUFER SIZE (SAMPLES)

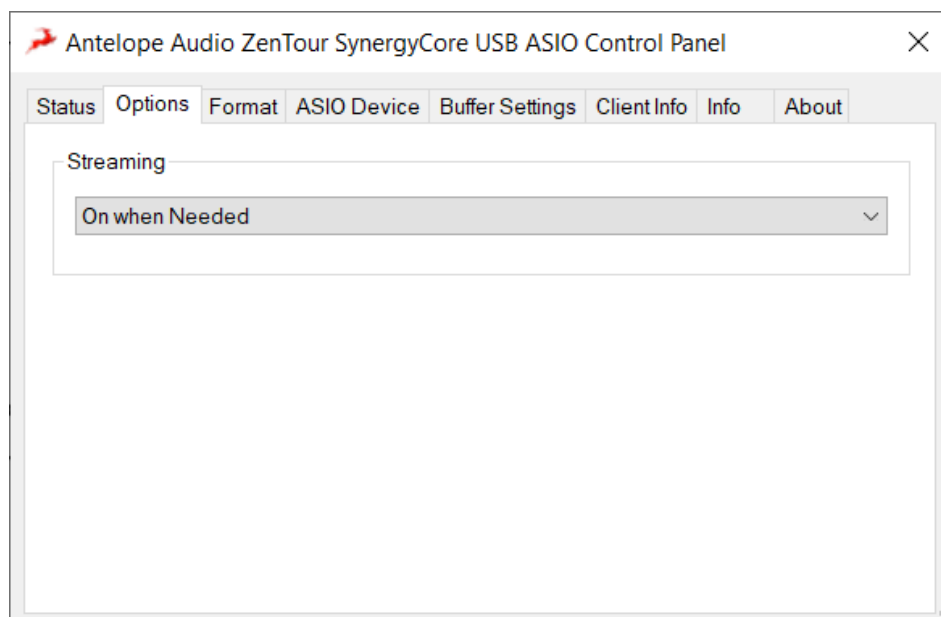


ASIO ドライバのコントロールパネルを開きます。ここでバッファサイズを選択します。



USB STREAMING MODE

クリックして、ASIO ドライバのコントロールパネルを開きます。ドロップダウンメニューから USB ストリーミングモードを選択します。オーディオのグリッチや不安定さを感じる場合は、2 つのモードを試してみてください。



TB LATENCY MODE

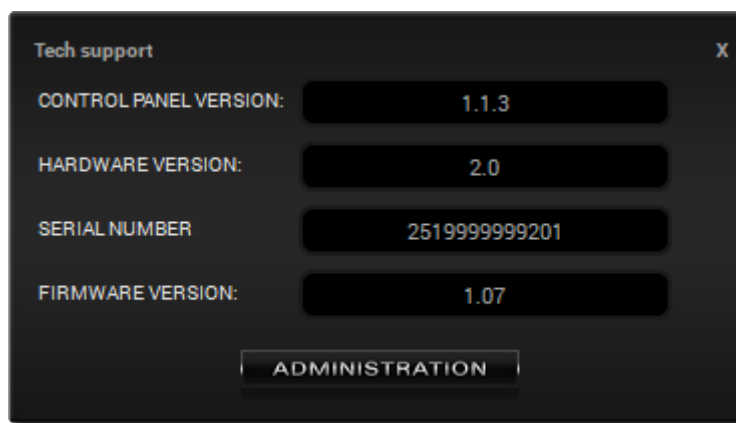


Thunderbolt™ で接続する場合は、ドロップダウンメニューからレイテンシーモードを選択します。オーディオのグリッチや不安定さを感じる場合は、さまざまなモードを試してみてください。

Back to Function strip 1...

'?' symbol

システム情報、Antelope Tech Support へのリンク、Antelope 登録ウィザードを起動するための「ADMINISTRATION」ボタンを含むヘルプウィンドウを開きます。



'-' symbol

クリックしてコントロールパネルを最小化します。

'X' symbol

クリックしてコントロールパネルを閉じます。



Function Strip 2



左から右へ説明



Input tabs

メインビューを「PREAMP」、「ADAT IN」、「S/PDIF IN」に切り替えます。

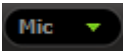

PREAMP tab



このタブには、8つの Hi-Z/プリアンプ/コンボ入力（上の写真）のコントロールが含まれています。

Text Label 	ダブルクリックしてテキストを変更します。
Gain Knob 	<p>ノブをクリックしてドラッグするか、テキストラベル（中央内側）をダブルクリックして入力ゲインを調整します。使用可能なゲイン範囲は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none">● Mic: 0dB – 65dB● Line: -6dB – 20dB● Hi-Z: 0dB – 40dB
Mic Emulations	<p>マイクのマークをクリックすると、「Mic Emulations」ウィンドウが開きます。「マイク」モードでは、インプット 5～8 で使用できます。詳しくは「Edge & Verge マイクエミュレーション」の章をご覧ください。</p>



Input type 	入力の種類を選択するドロップダウンメニューです。 <ul style="list-style-type: none">• Mic (microphone)• Line (line level sources)• Hi-Z (high-impedance musical instruments)
Input Signal Meter	入力信号の強度を視覚化します。赤色になるとゲインが過剰になるため、入力がクリップしてしまいます。ゲインを下げてください。
48V button 	コンデンサーマイクの 48V ファンタム電源の有効／無効を設定します。このボタンの下には「Phase Invert」ボタンがあります。

ADAT IN tab



このタブには、編集可能なテキストラベル、ゲイン調整ノブ、リンクボタン、シグナル強度メーターを備えた 8 つの ADAT デジタルオーディオ入力のコントロールが含まれています。すべてのチャンネルで使用可能な入力ゲインの範囲は -6dB ~ 12dB です。ADAT は S/MUX で動作します。

S/PDIF IN tab





このタブには、編集可能なテキストラベル付きの 2 つの S/PDIF デジタルオーディオ入力、ゲイン調整ノブ、リンクボタン、シグナルメーターのコントロールが含まれています。すべてのチャンネルで使用可能な入力ゲインの範囲は、-6dB ～ 12dB です。

Back to Function Strip 2...

HP1 Volume fader

フェーダーをクリック&ドラッグして、ヘッドホン出力1の音量を調整します。スピーカーマークをクリックしてミュート/ミュート解除します。

HP2 Volume fader

フェーダーをクリック&ドラッグして、ヘッドホン出力2の音量を調整します。スピーカーマークをクリックしてミュート/ミュート解除します。

TBK Button and volume fader

ボタンをクリックして、内蔵トークバックマイクを有効または無効にします。フェーダーをクリックしてドラッグして音量を調整します。

Bottom tab Selector



メインビューの下のタブをクリックして切り替えます。

Presets



以下の機能があります。

- 番号をクリックしてプリセット 1～5 をロードします。
- Ctrl または Command キーを押しながらクリックすると、プリセットをそのスロットに保存します。



Sessions

SESSION: defaults.as* SAVE LOAD

保存された SESSIONS と隣接する SAVE/LOAD ボタンを備えたドロップダウンメニューです。

SESSIONS はコントロールパネル構成全体の完全な「スナップショット」です。セッションを保存するとき、保存したいコンポーネントを正確に選択し、「Save as」ボタンから保存と共有のためにセッションファイルをエクスポートすることができます。セッションをロードする際には、コンピュータでセッションファイルをブラウズし、ロードするコンポーネントを選択することができます。



'Routing' tab



このタブでは、アナログとデジタルオーディオのルーティングマトリックス（上の写真）を表示します。

ルーティングマトリックスは行ベースです。各行はそれぞれ独自の色を持っており、特定のオーディオのイン/アウトを最大チャンネル数で表しています。

ルーティングマトリックスは、2つの主要なセクションに分かれています。From（ソース）とTo（デスティネーション）です。色付きの数字ブロックをドラッグ＆ドロップすることで、これらの間でオーディオをルーティングすることができます。また、以下のような機能もあります。

- 番号ブロックをクリックして、現在の経路先をハイライト表示します。
- 数字ブロックをダブルクリックすると、テキストラベルが変更されます。
- 色付きのブロックを右クリック（または Control クリック）して、このチャンネルをミュートする場合は「Mute」を、行内の全チャンネルをミュートする場合は「Mute All」を選択します。
- 複数のブロックを選択するには、Ctrl/Command+クリック、Shift+クリックのショートカットを使用します。
- 別のグリッドベースの表示も可能です（「MATRIX」をクリックしてください）。
- Undo / Redo ボタンも利用できます。
- Save / Load ボタンでは、セッション全体ではなく、ルーティング設定を保存/ロードすることができます。
- 「How-To」ボタンをクリックすると、インターネットブラウザからチュートリアルビデオのある YouTube のプレイリストが表示されます。



Routing Matrix - Terminology

FROM (Source) Section:

PREAMP	This row represents each of the 4 mic/line inputs.
EMU MIC	This row represents mic preamp inputs 1 - 4 with mic emulations applied to incoming microphone audio.
COMP PLAY	<p>COMP PLAY is where you receive audio from your DAW to route into the effects processing or other destinations.</p> <p>When your interface is connected over Thunderbolt™, the 'COMP PLAY' row represents DAW 'Outputs 1 – 32'. When your interface is connected over USB, the 'COMP PLAY' row represents DAW 'Outputs 1 – 24'.</p> <p>Basic workflow: Create a new track in your DAW and assign the output with matching number - e.g. DAW 'Output 1' = 'COMP PLAY' 1.</p> <p>Note: These rows also represent all computer audio, such as media playback, YouTube, etc.</p>
ADAT IN	This row represents up to 8 ADAT optical audio inputs.
SPDIF IN	This row represents 2 channels of incoming stereo S/PDIF audio over coaxial RCA cable.
AFX OUT	The AFX OUT row ('AFX' short for 'Antelope FX') represents up to 32 mono audio channels with Synergy Core FX applied.
MIX 1 - 4 L/R	The MIX 1 L/R to MIX 4 L/R rows represent the 2-channel stereo outputs from the four software mixers in the 'Mixer' tab.

TO (Destination):

LINE OUT	This row represents the 8 line outputs found on the DB25 connector at the rear panel. Note that these outputs are DC-Coupled and suitable for Control Voltage applications like controlling modular synths.
HP1	This row represents Headphone output 1 as two mono (L/R) channels.
HP2	This row represents Headphone output 2 as two mono (L/R) channels.
MONITOR	This row represents Monitor outputs L/R, found on 1/4-inch jacks on the rear panel. These mastering-grade outputs boast the highest dynamic range in the system.
REAMP	This row represents the two mono REAMP outputs, used for sending DI audio tracks for re-amping through guitar amplifiers and other suitable equipment. Read 'Re-amping' if you want to learn more about re-amping.
COMP REC	<p>COMP REC is where you send audio to your DAW for recording.</p> <p>When your interface is connected over Thunderbolt™, the 'COMP REC' row represents DAW 'Inputs 1 – 32'. When your interface is connected over USB, the 'COMP REC' row represents DAW 'Inputs 1 – 24'.</p>



	Basic workflow: Create a new track in your DAW and assign the input with matching number - e.g. DAW 'Input 1' = 'COMP REC' 1.
ADAT OUT	This row lets you route up to 8 mono audio channels to the ADAT output.
SPDIF OUT	This row lets you send 2 audio channels to S/PDIF-compliant equipment over coaxial RCA cable.
AFX IN	The AFX IN row ('AFX' short for 'Antelope FX') lets you route up to 32 mono audio channels into the Synergy Core FX. Note: You must route at least one signal here before any FX are being applied.
MIX CH1 - CH4	The 'Mixer' tab is home to four low-latency mixers with 32 inputs each. This row lets you route audio to their inputs.

If you ever find yourself struggling with the Routing Matrix for some reason, do not hesitate to contact our [Customer Support](#) team over phone, live chat and our ticket system. You can also visit [Antelope Audio on YouTube](#) and explore our video tutorials, or join the [Antelope Audio Users](#) Facebook group and ask for advice.



'Mixer' tab



ミキサータブには、4 つの 32 チャンネルのソフトウェアミキサーがあります。各チャンネルには、Pan、Volume、Solo、Link（奇数チャンネルの場合）のコントロールとメーター機能が装備されています。マスターチャンネルにはボリュームとミュートのコントロールがあります。

Limitations

- グループ化/バス/サブミキシング機能はありませんが、4 つの本格的なミキサーを搭載しているため、メインミックスと並行してサブミックス（ドラムバスやアーティストのヘッドフォンなど）を設置することができます。
- 技術的な理由により、現時点ではミキサー内でのボリューム・オートメーションはできません。Synergy Core FX のオートメーションは、AFX2DAW を使用して DAW 内で可能です。
- MIDI コントロールには対応していません。

ミキサー 1 には、モニタリング用のセンドエフェクトとして AuraVerb が用意されています。オーディオチャンネルの SEND ノブを回すとリバーブを聞くことができます。それ以外の点では、ミキサーは同じです。



AuraVerb



AuraVerb provides richness and color using a special new approach and an unique algorithm. The reverb features eight different controls, including a 'Color' parameter to create everything between darkened textures to bright, sizzling presence. In addition, there are 24 presets done by award-winning audio engineer & producer Brian Vibberts.

The following parameters are available in AuraVerb:

Color

The Color control lets you adjust the overall tone of the reverb. On "0" the space created is darker, like a lushly carpeted area. At "100" the reverb is at its brightest, which can add some 'sizzle' to a lead vocal, for example.

PreDelay

Common for most reverbs, the predelay allows you to create a bit of space between the source and the onset of reverb. This happens by controlling the amount of delay time that precedes the initial sound from the reverb. This parameter is used to place the reverberated signal later in time with respect to the unprocessed signal.

Natural settings for this are based on the size of the environment and range from 0 to 32 milliseconds. Fine adjustment of this parameter with respect to the tempo of the song or dramatic timing of the piece can help set the feel of the reverb within the mix.

Early Reflection Gain

This is the linear gain value for all early reflections. These reflections are perceptually grouped with the direct sound when set at lower levels, and can nicely thicken a track when increased.

Late Reflection Delay

Among other things, AuraVerb calculates reflected energy from the side walls and ceiling of the virtual space. Late Reflection Delay controls the delay of these bursts of reflections, either creating echoes or supporting the spatial impression of the simulated acoustic space.



Richness

Richness controls the complexity of the reverb envelopment and dampening nuances. At “0” there is less dampening and a brighter decay. This sound is light or airy, but by increasing the Richness, you can add a sense of spaciousness to the sound and smoothly increase reverb time for lower frequencies.

Reverb Time & Room Size

Reverb Time controls the length of decay, while Room Size increases the virtual space dimensions. The perceived decay time will also be affected by Richness and Color on sources with a lot of high frequency content.

Generally, as the size of the space increases, the Reverb Time will also increase.

Setting Reverb Time to 50% gives a natural sounding tail for all room sizes. Interesting big spaces or subtle ambience reverbs can be created by setting Reverb Time unusually high or low with respect to the Room Size parameter.

Output Level

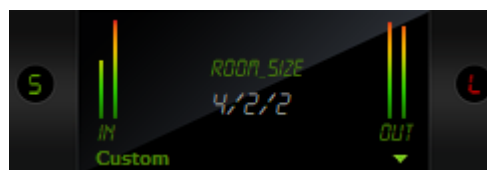
This is the output level control of the reverb. Since inputs for AuraVerb are assigned to Send knobs on Mixer 1’s channels, we recommend balancing the channel volume levels from the Send controls and using Output Level to adjust the amount of reverb in the Master bus.

REVERB FX ON/OFF Switch

Use it to enable and disable AuraVerb.

Preset Manager

The Preset Manager lets you save and load presets. Use the drop-down menu to choose a preset. Use the ‘S’ button to save a preset. Use the ‘L’ button to load a preset.



'Effects' tab



The Effects tab lets you apply up to 8 Synergy Core effects per mono audio channel for a total of 32 channel strips and up to 256 FX instances, independent of sample rate.

Note: AuraVerb is only available as a Send effect in Mixer 1.

FX Basics

- Route audio to the 'AFX IN' row inputs in the 'Routing' tab.
- Click the audio input (or linked pair) you want to work on:



- 'Link' buttons are available for each pair of inputs. Linking two inputs means the exact same FX processing is applied to both. Names of inputs and linked inputs are shown immediately above the Presets drop-down menu on the left.
- The 'DEL ALL' button clears all FX racks for all audio channels.
- Click the 'ADD NEW EFFECT' drop-down menu to choose and add effects. Their instances will appear in the FX Rack to the right. The list on the left lets you drag to re-order.
- Use the 'SAVE' and 'LOAD' buttons to store FX chains.
- Use the 'BP ALL' and 'DEL ALL' buttons to bypass or delete all FX on the current channel.



- Individual ‘BP’ (bypass) buttons are available next to each effect on the left side.
- Hold Ctrl (Windows) or Command (Mac) and drag to adjust FX parameters in smaller increments.

Notes:

- Manuals for the equalizers and compressors are available [here](#).
- The Antelope Audio AFX2DAW plug-in makes it possible to use Synergy Core FX inside your DAW. Please visit the [AFX2DAW product page](#) for more information.

Guitar Amps & Cabs



Among everything else it does, the Zen Tour Synergy Core rocks! A suite of 11 guitar amps and matching cabinets lets you monitor and record the roar of your electric guitar in real-time. There’s a bass rig in there too, so plug-in and get slappin’! If you don’t play guitar, but like the sound of cooked-up tubes and speaker cabinets pushing air, route any audio into these bad boys and check what happens!

Getting Started

Guitar amps and cabs are used like almost any other Synergy Core effect. Here are the basics:

1. Connect your electric guitar or bass to one of the four instrument/line inputs on the device’s front panel using a standard 1/4-inch TS instrument cable.



2. Open the Control Panel application and head to the 'PREAMPS' tab. Adjust input gain as you play the instrument, careful not to run the meter into the red.
3. Enter the 'Routing' tab and drag the colored number block corresponding to your 'PREAMP' input onto a block from the row labeled 'AFX IN'.
4. Drag the 'AFX OUT' block that corresponds to your 'AFX IN' block (same number) onto the output(s) you want to monitor and record from.
5. Enter the 'Effects' tab. Click the input which corresponds to the 'AFX IN' block. Click the 'ADD NEW EFFECT' button to choose an amp first, then click again and choose a cabinet. Here's a textbook California-style heavy metal rig, for example:

While the guitar amps don't really need an explanation, the cabinet module is worth examining:

- Change the cabinet model anytime from the 'Cabinet' drop-down menu.
- Change your cabinet's mics from the 'Mic A' and 'Mic B' drop-down menus. Click the adjacent 'Phase' button if your choice of microphones results in phasing issues.
- Click and drag the virtual microphones to adjust their vertical and horizontal positioning.
- Click and turn the 'Mic A' and 'Mic B' knobs to dial-in the amount of signal you want from each microphone.
- Click and turn the 'Rear Mic' knob to mix-in signal from an additional mic behind the cabinet.
- Click and turn the '45-degree Mic' knob to mix-in signal from an additional mic positioned at a 45-degree angle from a speaker cone.
- Click the 'ReSPiRe' button to hear some cab sim mojo courtesy of our friends from [Overloud](#). In their own words, the ReSPiRe technology lets you switch between the 'real' response of the cabinet and a processed version optimized to fit into a mix and avoid frequency overlap with the other instruments.
- Click the 'HPF' button to engage a preset high-pass filter (tames excessive low end).



- Click the 'LPF' button to engage a preset low-pass filter (tames harsh or shrill-sounding highs).
- Click the 'BP' button to bypass the cab sim.

6. If you want to take the guitar sound into your DAW for recording and additional processing, enter the 'Routing' tab and drag the corresponding 'AFX OUT' block onto a block labeled 'COMP REC'. Setup the rest of your routing so you are recording from the 'COMP REC' output (e.g. 'COMP REC' 1 = DAW 'Input 1') and monitoring from the DAW instead of the Control Panel to prevent 'duplex' monitoring.

Note: You can disable the Synergy Core cab sim and use custom guitar cabinet IRs in your DAW with your preferred IR Loader.

Re-amping

Re-amping is the practice of running entire guitar performances, recorded in the form of completely 'uncolored' signal from the instrument's pickups, through all kinds of guitar amplification and recording equipment. This way, guitar performances can be tightly edited prior to amplifying, and professionally recorded in conditions that are impractical or out of the player's reach.

Prior to pro audio manufacturers turning their attention onto the phenomenon, re-amping was usually accomplished using standard line outputs with Direct Injection (DI) boxes attenuating the signal from line-level to instrument-level accepted by guitar amplifiers. However, not all DI boxes are built equal, and subpar design would inevitably result in unflattering coloration and signal degradation. And then there were the adventurers who ran their line outs straight into the amplifier, attenuating the signal from the DAW's volume faders hoping no one gets hurt...

Luckily, we live in a more civilized age. A typical workflow for re-amping with the Zen Tour Synergy Core would be:

1. Connect the REAMP outputs to your guitar equipment's inputs using standard 1/4-inch instrument cables.



2. Place your guitar DIs onto tracks in your DAW and assign them to Outputs 1 – 32 (Thunderbolt™) or Outputs 1 – 24 (USB). These outputs send audio to the 'COMP PLAY' channels in the Control Panel's Routing Matrix.
3. Head to the 'Routing' tab and route up to two 'COMP PLAY' channels into the 'REAMP' outputs.
4. Next, route the inputs you will be recording from into the 'COMP REC' channels. Set up DAW tracks to record audio from them - e.g. 'COMP REC' 1 = DAW 'Input 1'.
5. Hit 'Play' and you should be hearing your performance through your guitar rig. Shape your tone and start recording when you are ready.

Notes:

- Level faders for the REAMP outputs are available in the Control Panel application's 'Settings Window' (the 'Gear' symbol). Attenuate the signal if you are overdriving the amplifier's front end.
- It's possible to use the REAMP outputs as Sends for external equipment, but we cannot recommend this unless said equipment has preamps to amplify the very quiet instrument-level signal. You are better off using the insert patch points on the Zen Tour Synergy Core's rear panel for Send/Return configurations.

Software re-amping

You can re-amp DI guitar tracks through the Synergy Core amps & cabs as well:

1. Open your DAW. Place your DI on a track and assign it to one of Outputs 1 – 32 (Thunderbolt™) or Outputs 1 – 24 (USB). Remember: DAW Outputs = 'COMP PLAY' inputs.
2. Open the Control Panel. Enter the 'Routing' tab and drag the 'COMP PLAY' block onto an 'AFX IN' block.
3. Enter the 'Effects' tab and click the channel you want to work on.
4. Stack your amps, cabs and FX by clicking the 'ADD NEW EFFECT' button.



5. Hit 'Play' in your DAW's transport controls to hear the sound as you shape your tone.
6. If you want to record the result, route the corresponding 'AFX OUT' block onto an available 'COMP REC' output and record from it in your DAW.

Edge & Verge mic emulations

Edge & Verge mic emulations are available on preamp/combo inputs 5 – 8. They are intended for use with the Antelope Audio Edge & Verge modeling microphones only. We cannot guarantee optimal (or even usable) results with other microphones.

Before attempting to use mic emulations, make sure of the following:

1. The mic emulations for your modeling microphone are installed from the 'Software' tab in the Antelope Launcher. Install them if they are not.
2. The installed mic emulation bundles are assigned to your Zen Tour Synergy Core.

Getting Started

Mic emulations are accessed by clicking the tiny 'Mic' symbol, seen on Channels 5 – 8 in the 'PREAMPS' tab.

Gain Calibration

It's a good idea to connect your mic(s) now and calibrate preamp gain before you proceed. Click and turn the Gain knobs or double-click the text fields and enter values from the keyboard.



Gain adjustment for the Edge Solo and Verge is straightforward, but the Edge Duo and Edge Quadro are multi-membrane microphones. There may be differences in the input signal strength from each membrane, which may have to be compensated for with individual gain adjustments.

Note that engaging mic emulations for Edge Duo and Edge Quadro automatically ‘links’ their input channels, thus individual gain adjustments per input are not possible while using their mic emulations.

Using Mic Emulations

In the ‘Mic Emulations’ window, click and rotate the dial to access the emulations available for your modeling microphone:

Following is a guide to using the mic emulations for each Antelope Audio modeling microphone.

Edge Solo



Edge Solo Mic Emulations Window

The following functionality is available:

- Choose mic emulations from the drop-down menu on the right.
- Click and turn the 'Phase Invert' dial to flip the microphone's polarity.
- Click and drag the '48V' switch to activate or turn off phantom power.

Recording and Monitoring Edge Solo

Edge Solo is a single-membrane condenser microphone. This means the microphone will occupy one physical mic preamp input, one block in the Routing Matrix 'PREAMP' row, and one block in the 'MIC EMU' row.

Edge Solo mic emulations work on a single input audio channel. Recording and monitoring both 'dry' and 'mic emulation' audio means dealing with two mono tracks.

- Route the 'PREAMP' input for Edge Solo to your desired outputs to monitor 'dry' audio.
Route to a 'COMP REC' block to record from the corresponding input in your DAW.



- Route the 'EMU MIC' output for Edge Solo (same number as the 'PREAMP' input) to your desired outputs to monitor 'mic emulation' audio. Route to a 'COMP REC' block to record from the corresponding input in your DAW.
- Route 'PREAMP' and 'EMU MIC' blocks to your desired outputs and 'COMP REC' channels to monitor and record both 'dry' and 'mic emulation' audio.

For more information about Edge Solo, visit its [product page](#).

Edge Duo

Note to owners of the legacy 'Edge' modeling microphone: 'Edge' and 'Edge Duo' have nearly identical hardware, so feel free to use the 'Edge Duo' emulations with your legacy 'Edge' mic.



Edge Duo Mic Emulations Window

The following functionality is available:

- Choose mic emulations from the drop-down menu in the middle.
- Click and turn the 'Phase Invert' dial to flip the microphone's polarity.
- Click and drag the '48V' switch to activate or turn off phantom power.
- Click and turn the 'Channel Swap' dial to swap the Edge Duo inputs.
- Click and turn the 'Pattern' knob to adjust the polar pattern. Note that some mic models have fixed or limited polar pattern adjustment.



Recording and Monitoring Edge Duo

Edge Duo is a dual-membrane condenser microphone – it has one capsule with dual membranes and connects with a Y-XLR cable (included), one XLR connector for each membrane. The Left (white) connector is the front membrane, the Right (red) is for the rear membrane.

The microphone occupies two physical mic preamp inputs, two blocks in the Routing Matrix 'PREAMP' row, and two blocks in the 'EMU MIC' row.

Note: You can use Edge Duo as a single-membrane condenser mic by disconnecting one of the XLR connectors. In this case, the mic emulations will be visible, but they won't function correctly, you cannot swap inputs and you cannot adjust polar pattern.



Recording and monitoring Edge Duo as a single-membrane condenser mic

Route the 'PREAMP' input for Edge Duo to your desired outputs to monitor 'dry' audio. Route to a 'COMP REC' block to record from the corresponding input in your DAW.

Recording and monitoring Edge Duo as a dual-membrane condenser mic

In this case, you will record and monitor two concurrent mono inputs, one coming from each membrane. They will sound slightly different in tone and volume, due to the physical distance between the membranes and the performer. You may have to compensate with individual gain adjustments for each membrane.

Route the 'PREAMP' inputs occupied by Edge Duo to your desired outputs to monitor 'dry' audio. Route them to 'COMP REC' blocks to record from the corresponding inputs in your DAW.

Recording and monitoring Edge Duo as a modeling microphone

Make sure that 'Edge Duo' mic emulations are enabled. Route the 'MIC EMU' inputs corresponding to the 'PREAMP' inputs occupied by Edge Duo to your desired outputs for monitoring and the 'COMP REC' blocks for DAW recording.

Recording and monitoring 'dry' and 'mic emulation' audio simultaneously

With the Edge Duo, monitoring and recording 'dry' and 'mic emulation' audio simultaneously means handling four concurrent mono signals – two 'dry' tracks and two 'mic emulation' tracks. 'Dry' audio comes from the 'PREAMP' inputs, and 'Mic Emulation' audio comes from the 'MIC EMU' outputs. Route them anywhere you want in the Routing Matrix.

For more information about Edge Duo, visit its [product page](#).



Edge Quadro

Connecting Edge Quadro

Edge Quadro is a quad-membrane condenser microphone – it has two heads, each with dual membranes. The Top head rotates 360-degrees, enabling stereo recording techniques such as M/S, X/Y, Blumlein, and even 3D sound. Therefore, the microphone is bundled with a pair of Y-XLR cables. Their Left (White) connectors are for the front membranes, and their Right (red) connectors are for the rear membranes.

However, each cable is designated for either the Top or Bottom head and labeled accordingly – T (Top) or B (Bottom). The inputs on the microphone are labeled too, letting you know where each cable needs to be connected.

There's a bevy of options for connecting Edge Quadro to your Zen Tour Synergy Core:

As a single-membrane (rotatable) condenser mic. Connect just one XLR from the Top (rotatable) or Bottom head using the corresponding cable. The possible configurations are:

1. Top Head – Front Membrane.
2. Top Head – Rear Membrane.
3. Bottom Head – Front Membrane.
4. Bottom Head – Rear Membrane.

As a dual-membrane (rotatable) condenser mic. Connect two XLRs from either (or both) the Top and Bottom heads with the corresponding cables. The possible configurations are:

1. Top Head – Front and Rear Membranes.
2. Bottom Head – Front and Rear Membranes.
3. Top Head – Front Membrane. Bottom Head – Front Membrane.



4. Top Head – Front Membrane. Bottom Head – Rear Membrane.

5. Top Head – Rear Membrane. Bottom Head – Front Membrane.

6. Top Head – Rear Membrane. Bottom Head – Rear Membrane.

As a quad-membrane rotatable condenser microphone. Connect all XLRs from both heads with the corresponding cables. This is the only option for using the Edge Quadro mic emulations.



Edge Quadro Mic Emulations Window

Edge Quadro and Edge Duo mic emulations are identical, except for the ability to apply two different mic emulations in unison - one for each head – complete with two different polar patterns that are also swappable. All in all, the functionality is the same, but with two mic emulation selectors and two polar pattern changers.

Monitoring and recording Edge Quadro

Taking full advantage of the Edge Quadro's 360-degree recording and dual-emulation capabilities means the microphone will occupy four physical mic preamp inputs, four blocks in the Routing Matrix 'PREAMP' row, and four blocks in the 'MIC EMU' row.

Monitoring and recording 'dry' and 'mic emulation' audio simultaneously with the Edge Quadro means handling eight concurrent mono tracks – two 'dry' tracks from its Top head, two 'dry' tracks from its Bottom head, two 'mic emulation 1' tracks and two 'mic emulation 2' tracks.



With so many signals available, the routing and processing possibilities are extensive. Put the manual down and explore your skills and creativity.

For more information about Edge Quadro, visit its [product page](#).



Verge

Verge is a small-diaphragm condenser microphone that's as simple to use as the Edge Solo. Its dimensions and ability to handle high sound pressure levels make it a better fit for positioning in tight spaces and recording very loud sources, such as drum kits.



Verge Mic Emulations Window

The following functionality is available:

- Choose mic emulations from the drop-down menu on the right.
- Click and turn the 'Phase Invert' dial to flip the microphone's polarity.
- Click and drag the '48V' switch to activate or turn off phantom power.

Recording and Monitoring Verge

Verge is a single-membrane, small-diaphragm condenser microphone. This means the microphone will occupy one physical mic preamp input, one block in the Routing Matrix 'PREAMP' row and one block in the 'MIC EMU' row.



Verge mic emulations work on a single input audio channel. Recording and monitoring both 'dry' and 'mic emulation' audio means dealing with two mono tracks simultaneously.

- Route the 'PREAMP' input for Verge to your desired outputs to monitor 'dry' audio. Route to a 'COMP REC' block to record from the corresponding input in your DAW.
- Route the 'EMU MIC' output for Verge (same number as the 'PREAMP' input) to your desired outputs to monitor 'mic emulation' audio. Route to a 'COMP REC' row to record from the corresponding input in your DAW.
- Route 'PREAMP' and 'EMU MIC' blocks to your desired outputs and 'COMP REC' inputs to monitor and record both 'dry' and 'mic emulation' audio.

For more information about Verge, visit its [product page](#).



AFX2DAW



Available as a separate purchase, AFX2DAW is a bridge plug-in for using Synergy Core FX as inserts in your DAW. All Synergy Core FX processing and I/O audio streaming activity is handled by the DSP and FPGA processors in your interface. AFX2DAW provides a more immediate workflow with the added bonus of Synergy Core FX automation in your DAW, which isn't available otherwise.

At the time of writing, AFX2DAW is supported only on Mac computers via Thunderbolt™. A Windows version is under development.

[Click here](#) to learn more and purchase AFX2DAW.

Setting up AFX2DAW

After purchasing AFX2DAW, you will receive a Claim Code at the e-mail address you used to register your Antelope Audio user account.

Note: If the e-mail doesn't seem to arrive in your inbox, please check your 'Spam' and 'Junk' folders.

1. Log-in to antelopeaudio.com and head to the 'Claim Features' page to enter your Claim Code.
2. Open Antelope Launcher and click the 'Plug-ins' button. Download and install the latest version of 'AFX2DAW'.
3. Click the 'Devices' button and start the Zen Tour Synergy Core Control Panel.



4. Click the '?' button, then click 'ADMINISTRATION'. Log-in with your Antelope Audio account information and click 'Continue'.

5. Choose 'Register device or assign features' and follow the on-screen instructions to assign AFX2DAW to your Zen Tour Synergy Core.

6. Launch your DAW and load an instance of AFX2DAW on a mono or stereo track. The plug-in behaves almost exactly like the Control Panel 'Effects' tab. However, you no longer have to choose the channel you are working on as AFX2DAW binds to the track it's loaded on.

The following functionality is available:

- Click the 'ADD NEW EFFECT' drop-down menu to choose and add effects. Their instances will appear in the FX Rack to the right. The list on the left lets you click and drag to re-order.
- Use the 'SAVE' and 'LOAD' buttons to store FX chains.
- Use the 'BP ALL' and 'DEL ALL' buttons to bypass or clear all FX currently in the rack.
- Use the drop-down menu below these buttons to load presets.
- Individual 'BP' (bypass) buttons are available next to each effect on the left side.
- Command-click and drag on an FX parameter to adjust it in smaller increments.

7. You will notice that a new instance of the Zen Tour Synergy Core Control Panel has been loaded in the background. The 'Routing' tab now features an 'AFX2DAW' button immediately above the 'MATRIX' button.

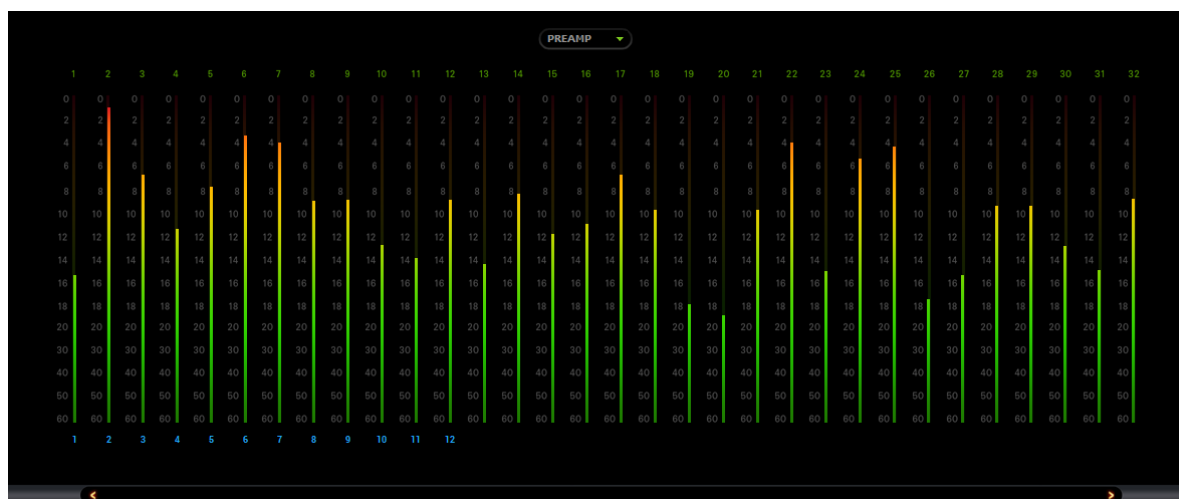
Click this button and the following window will appear:

Click and drag the FPS refresh rate knob to set the frame rate for the peak meter animations of FX loaded in AFX2DAW. Increasing the frame rate results in smoother animation but comes at the cost of CPU power. Click 'Apply' to store the setting or 'Cancel' to go back.

Note: Closing all open AFX2DAW windows in your DAW session eliminates the use of CPU power to animate peak meter movement, as such is no longer being rendered on or off-screen.



'Meters' tab



The Meters tab provides up to 32 individual volume meters for each row from the 'Routing' tab, selectable from the drop-down menu.

ADVANCED USER TIPS

Send and receive CV (Control Voltage) commands to Eurorack modular synths

Zen Tour Synergy Core features DC-coupled line outputs. This makes it capable of sending CV (Control Voltage) commands to analog synthesizers.

CV is especially prominent inside the realm of 'modular' synths, more specifically those comprised of modules made in the exceedingly popular Eurorack format. The individual modules (e.g. VCO, VCA, VCF, LFO, ADSR) within such a system communicate primarily through Direct Current (DC) patch points as opposed to Alternating Current (AC), with control voltage carried over patch cables. That's because AC-coupling filters out ultra-low frequencies, including the types of sustained voltage used in modular synthesis.

Eurorack owners are fond of integrating their modular systems with Ableton Live. The free [CV Tools](#) extension makes it possible to send and receive CV commands as if they were regular audio streams inside the DAW, which is a particularly straightforward workflow.



How to get started

1. Bring the audio output from your Eurorack modular down to line-level using a dedicated output module.
2. Connect your modules to the Zen Tour Synergy Core.
3. Enter the Control Panel 'Routing' tab. Route the I/O channels you occupied into the COMP REC row.
4. Launch Ableton Live and set up your project accordingly.

Safety precautions

1. Make sure to prevent excessive output volume.
2. **Never send CV to your speakers.**
3. Bring any Trigger and Gate modules' output down to line-level (about 1v max) before connecting them to Zen Tour Synergy Core.

For help with setting up Ableton Live, visit the [Ableton Knowledge Base](#).



CUSTOMER SUPPORT INFORMATION

Antelope Audio Customer Support can be reached by the following means:

Online

Visit support.antelopeaudio.com

Phone

US time: 12AM (midnight) – 8PM (CST), Monday – Friday

US Phone Number: [\(916\) 238-1643](tel:+19162381643)

European time: 6AM – 2AM (GMT), Monday – Friday.

UK Phone Number: [+44 1925933423](tel:+441925933423)

Live Chat

US time: 12AM (midnight) – 2PM (CST), Monday – Friday

European time: 6AM – 8PM (GMT), Monday – Friday.

Note: If you're trying to reach us outside working hours, we advise you to file a ticket in our customer support system or leave a voice message.

Additional Resources

- The [Antelope Audio YouTube channel](#) is home to various tutorial videos and endorser content which you may find helpful and inspiring.
- The [Antelope Audio Users Facebook group](#) lets you interact with fellow users and some of our employees. Note, however, that it is not meant to be a support group. Please contact our customer support team for such inquiries.



- The [Knowledge Base](#) in our Customer Support section is an often-overlooked source of troubleshooting information, answers to commonly asked questions and Antelope know-how.

MY ANTELOPE AUDIO PRODUCT ISN'T WORKING.

WHAT SHOULD I DO?

If you can't find a solution on your own, please get in touch with us so we check if you are having a hardware-related issue. If this is the case, we'll guide you through the repair process. If the product should be returned, a RMA number will be issued so we can begin the procedure.

What's an RMA number?

Issuing a RMA (Return Merchandise Authorization) number is required for any factory service or repair procedure. Please, don't attempt to send us your device without receiving a RMA number first, as the device will be returned and not serviced.

How do I get an RMA number?

The Antelope Audio Customer Support team is in charge of issuing RMA numbers. Visit support.antelopeaudio.com and get in touch.

After your RMA has been issued, you will receive an email with instructions on how to proceed.



RMA shipping information

Alongside the product you are returning please, include a letter containing your full name, shipping address, RMA number issued by our technical support team and a note with a short information about the technical issue.

Please use the original box if possible, because a worn out one will surely not protect your product sufficiently on its way to the Antelope Audio HQ. Additional cushioning materials in multiple layers between the unit and the box walls to prevent from shock, vibration and various tears and scratches.

Please remove any labels or old shipment markings it may have and ensure you add your shipping address inside the box in case the original shipment label becomes illegible during transportation.

The shipping costs are covered by the owner of the product. Antelope Audio will not cover any local customs charges.

We recommend using a courier service of your choice (e.g. DHL, UPS, FedEx). The package should be insured for its real value, marked as fragile and a tracking number should be provided. We do not recommend using standard mail delivery services.

Please, don't forget to add the RMA number, issued by the Antelope Audio technical support, on all shipping paperwork.

Antelope Audio cannot be held responsible for undelivered packages – lost or damaged on the way to the Antelope Audio HQ. For damage claims, please contact your shipping service provider of choice.

Antelope Audio cannot cover any repair costs for product damages due to poor packaging.



LIMITED WARRANTY POLICY

This is a non-transferable voluntary Limited Product Warranty provided to end-customers who have purchased Antelope Audio-branded hardware product (hereinafter referred to as “Product”) from an authorized Antelope Audio re-seller.

For customers covered by consumer protection laws or regulations in their country of purchase or, if different, their country of residence, the benefits conferred by Antelope Audio's Limited Warranty are in addition to, and not instead of, rights and remedies convened by such consumer protection laws and regulations and it does not exclude, limit or suspend buyer's rights arising from consumer law. Consumers have the right to choose whether to claim service under the Antelope Audio Limited Warranty or under their consumer law rights.

All claims made under the Antelope Audio Limited Warranty will be governed by the terms set out in this warranty document.

Warranty Coverage

Antelope Audio warrants that the Product will be free from defects in material and workmanship for the period of 1 (one) year commencing on the date of purchase of Product by end-customer from authorized Antelope Audio's re-seller.

Except where explicitly prohibited by applicable local law, this warranty is limited to the original purchaser and is non-transferable. This warranty provides you with specific legal rights, and you may have additional rights that vary under local laws.

In general, this warranty means your Antelope Audio hardware product will operate in accordance with published technical specifications, as specified by its data-sheet, and in the operating environment for which it was intended for the length of the warranty period.

This version of the warranty applies to products purchased on or after January 1, 2018. For prior versions of the Antelope Audio limited warranty, please contact customer service.



Limited Factory Refurbished (B-stock) Warranty

Antelope Audio warrants products sold as “B-stock, Factory Refurbished or Open Box” to be free from defects in materials (unless otherwise stated in product description) and workmanship. Only products purchased from an authorized dealer or directly from Antelope Audio are covered by this Warranty.

The Limited Factory Refurbished (B-stock) Warranty is valid for the period of 6 (six) months, commencing on the date of purchase of Product, if local regulations do not require otherwise.

All warranty terms contained hereunder apply also to the B-stock Warranty, unless otherwise specified.

Remedies

Antelope Audio’s entire liability and your exclusive remedy for any Antelope Audio Product that is not operating in accordance with its published technical specifications is at Antelope Audio’s discretion:

- 1) to repair the Product at Antelope Audio’s expense using new or equivalent-to new refurbished parts in good working condition; or
- 2) to replace the Product at Antelope Audio’s expense with a product with equivalent functionality formed from new and/or equivalent-to new refurbished parts in good working condition, or
- 3) to refund the price paid. Should Antelope Audio decide to refund the price paid, it may deduct from the paid Product’s price any damages caused to the Product; where, within fourteen (14) days of the expiration of the warranty period, (i) Antelope Audio has received written notice of any nonconformity; (ii) after Antelope Audio’s written authorization, customer has returned the nonconforming product to the designated place; and (iii) Antelope Audio has determined that the Product is nonconforming and that such non conformity is not the result of any of the exclusions designated below.



These warranty obligations are conditioned upon the hardware being returned to the original place of purchase, or another place as directed by Antelope Audio, with the original sales receipt attached. You will be required to pay shipping and handling charges for returning the product. You may be required to pay any other applicable tariffs, duties, taxes, or other fees with regard to returning the products.

Any repaired or replacement Product will be warranted for the remainder of the original warranty period.

Obsolete or Discontinued Products

An obsolete or discontinued product will be repaired or replaced with the same product if available. If Antelope Audio is unable to replace your obsolete or discontinued product with the same product, Antelope Audio will replace the obsolete or discontinued product, in its sole discretion, with a product having similar function and capacity.

Exclusions

This warranty does not cover problems or damage resulting from, but not limited to, any of the following: (i)Wear and tear associated with normal use; (ii)Any modification, abuse, accident, disassembly, misapplication, misuse, negligence, acts of God, accident; (iii)Unauthorized repair or attempted repair by anyone other than Antelope Audio or someone authorized by Antelope Audio to do warranty work; any unauthorized repairs will void this warranty(iv)Any improper operation, maintenance or installation, including any use not in accordance with any supplied product instructions; (v)Connection to any improper voltage supply; (vi)Use of consumables or spare parts not supplied by Antelope Audio, except where such restriction is prohibited by applicable local law; (vii)Any other cause which does not relate to a Product defect in materials or workmanship.

The warranty does not apply to any Products which have been subject to misuse, neglect, accident or modification or which have been soldered or altered such that they are not capable of being tested under normal test conditions.



This warranty does not cover (i) any counterfeit products, i.e. Products that Antelope Audio, at its sole discretion, determines were not manufactured by Antelope Audio or any of its authorized manufacturing partners; (ii) Products purchased from a person or entity which is not an authorized dealer or re-seller of Antelope Audio; (iii) Product sold “as is” or “with all faults”, to the extend permitted by local law.

This warranty is not valid in case any manufacturer label(s), serial numbers, date stamp(s) or warranty sticker(s) has been altered or removed from the Product.

Limitation of Liability

ANTELOPE AUDIO SHALL NOT BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INCIDENTAL, INDIRECT, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES WHATSOEVER, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF PROFITS, REVENUE, OR DATA (WHETHER DIRECT OR INDIRECT) OR COMMERCIAL LOSS FOR BREACH OF ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTY ON YOUR PRODUCT EVEN IF Antelope Audio HAS BEEN ADVISED PREVIOUSLY OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. Some local laws do not allow the exclusion or limitation of special, indirect, incidental or consequential damages, so this limitation or exclusion may not apply in your jurisdiction.

ANTELOPE AUDIO WILL NOT ASSUME OR AUTHORIZE ANY OTHER PERSON TO ASSUME FOR IT ANY OTHER LIABILITY IN CONNECTION WITH ITS PRODUCTS.

Data Recovery

In the event of data loss using Antelope Audio storage devices, Antelope Audio is not responsible for backing up or recovering any data that you may have lost.

No Other Warranties

No Antelope Audio employee, dealer, re-seller, or other agent is authorized to make any modification, extension, or addition to this warranty.

How to Make a Warranty Claim

Valid warranty claims should be processed through your point of purchase. Please also verify the return policy directly with the retailer where you purchased your product. Any warranty claims that cannot be reprocessed through your original point of purchase should be addressed directly to Antelope



Audio. Our customer service contact information can be found on the web or in the documentation included with your Product.

Returning Your Product

In the event that you need to return your Antelope Audio products for repair or replacement, Antelope Audio will provide you with a Return Merchandise Authorization Number (RMA#) as well as return instructions. Do not return your product without prior approval from Antelope Audio. Any product returned without a valid unique RMA# will be refused and returned to the sender at the sender's expense. To avoid problems at the time of receipt, clearly write your RMA# on the outside of the package and include a copy of your RMA confirmation-mail within the package.

In certain situations, for in-warranty units, we may (entirely at our opinion) offer you a temporary replacement unit, provided that we have such on stock in your state. To request a temporary replacement unit, a valid credit card must be provided to secure the new replacement unit for shipping prior to Antelope Audio receiving the defective one.

Request a Return Material Authorization Number (RMA#)

Please follow these steps to obtain an RMA number:

(I) For end user customers, submit a claim online at: support.antelopeaudio.com. For business to business (B2B) / Direct customers of Antelope Audio please email us at techsupport@antelopeaudio.com

(ii) A valid proof of purchase is required for RMA processing (i.e. receipt, invoice, etc). Antelope Audio will provide you with the RMA number within 2 working days as of the claim submission date.

RMA Return Addresses

We have multiple RMA receiving locations worldwide. Your RMA confirmation will specify the specific return address you must use when sending your RMA package. Any packages received at an unauthorized location may be refused and returned to the sender at the sender's expense.



Products Lost or Damaged During Transit

The original packaging material should be used to pack the product for return; if the original packaging is not available, you should use such materials that provide the same or greater protection to the product. All packages that arrive with any external damage or appear inadequately packed will be refused and returned to the sender at the sender's expense. We are not responsible for damage incurred during shipping to our RMA receiving locations or for lost or stolen products.

Company information

Antelope Audio is the trade name, under which the company Elektrosfera Ltd., registered under the legislation of the Republic of Bulgaria with UIN: 131052590, is doing business and is worldwide known. Elsewhere in this document where the trade name **Antelope Audio** is used shall refer to Elektrosfera Ltd., with address of management: Tsarigradsko Shose Blvd., 7th km, Building of BIC IZOT, floor 6, Mladost region, Sofia, Bulgaria.

If any term hereunder is held to be illegal or unenforceable, it shall be severed from this warranty and the legality or enforce ability of the remaining terms shall not be affected.

SAFETY NOTES

To reduce the risk of electrical shocks, fire, and related hazards:

- Do not remove screws, cover, or cabinet. There are no user serviceable parts inside. Refer servicing to qualified service personnel.
- Do not expose this device to rain, moisture or spillover of liquid of any kind.
- Should any form of liquid or a foreign object enter the device, do not use it. Switch off the device and then unplug it from the power source. Do not operate the device again until the foreign object is removed, or the liquid has completely dried and its residues fully cleaned up. If in doubt, please consult the manufacturer.
- Do not handle the power cables with wet hands!



- Make sure the device is switched off when plugging/unplugging it to/from the power source.
- Avoid placing things on the cabinet or using the device in a narrow and poorly ventilated place which could affect its operation or the operation of other closely located components.
- If anything goes wrong, turn off the device first and then unplug the power. Do not attempt to repair the device yourself. Consult authorized service personnel or your dealer instead.
- Do not install near any heat sources such as radiators, stoves, or other apparatus (including amplifiers) that produce heat.
- Do not use harsh chemicals to clean your unit. Clean only with specialized cleaners for electronics equipment.
- Connect all your devices before powering your unit.
- This unit is connected via its power cord to the mains safety earth.
- Never operate the unit without this earth connection.
- DC power supply cable should be routed so that it is not likely to be walked on or squeezed by items placed upon or against it.
- To completely turn off the device, unplug the power cable first from the outlet and then from the rear panel of the unit.
- Both occasional and continued exposure to high sound pressure levels can cause permanent ear damage via headphones and monitors.
- Your unit should always be un-racked when traveling or in a flight case.

The device is designed to operate in a temperate environment, with a correct Operating Temperature of 0-50° C, 32-122° F.



TECHNICAL SPECIFICATIONS

FX PROCESSING

4x DSP + 2x FPGA Synergy Core Architecture

36 FX included, expansions available online

ANALOG I/O

4x Instrument/Line inputs on TRS Jacks

4x Mic/Line inputs on TRS/XLR Combo Jacks

8x Line Outputs * on DB25 (TASCAM Standard 25-pin Layout)

2x Monitor Outputs on TRS Jacks

2x Headphone Outputs on TRS Jacks

2x Transformer-based Reamp Outputs on TRS Jacks

* All line outputs are DC-Coupled and support CV applications such as controlling modular synthesizers.

DIGITAL I/O

ADAT:

44.1/48 kHz – 8 inputs / 8 outputs

88.2/96 kHz – 4 inputs / 4 outputs

176.4/192 kHz – 2 inputs / 2 outputs

SPDIF:

44.1 to 192 kHz – 2 inputs / 2 outputs



USB:

USB 2.0 - Type B Connector

(Up to 24 audio channels)

THUNDERBOLT™:

Thunderbolt™ 3 - Type C Connector

(Up to 32 audio channels)

MIC PREAMPS

EIN: -128 dBu

Dynamic Range: 121 dB

THD: -106 dB

Max input: +20 dBu

Max Gain: 65 dB

CONVERSION

A/D Converter:

124dB DNR

-110 THD+N

D/A Converter:

127dB DNR

-106 THD+N

D/A Monitor Converter:



130dB DNR

-115 THD+N

Sample Rates (kHz):

44.1, 48, 88.2, 96, 176.4, 192

CLOCKING SYSTEM

4th Generation Acoustically Focused Clocking & Jitter Management

64-bit DDS

OTHER

Operating Temperature

0-50°C, 32-122°F

Weight (Approx.)

1.6 kg/ 3.5 lbs

Dimensions (Approx.)

Width: 255 mm / 10.0"

Height: 62 mm / 2.4"

Depth: 168 mm /6.6"

Power Consumption

25 Watts